LION

今月の特集

ホノルル国際大会

8

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

August 2015 WWW.THELION-MAG.JP

ライオン誌（毎月20日発行）第58巻第2号 2015年7月21日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオンズ文庫

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判 224ページ
1部500円・送料実費

●大口注文割引
100～499部＝1部450円
500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 LCIF早分かり

ライオンズクラブ国際財団の目的やその仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判 176ページ
1部400円・送料実費

●大口注文割引
100～499部＝1部350円
500部以上＝1部300円

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。

B6判 224ページ 1部800円・送料実費

ウィ・サーブ

日本にライオンズクラブが誕生した1952年から2002年まで、日本ライオンズ50年間の歴史。

B6判 332ページ 1部800円・送料実費

『ライオン誌』創刊号復刻版

1958年創刊の『ライオン誌』日本語版を復刻。誌面から草創期の活気がひしひしと伝わってくる。

B5判 68ページ 1部300円・送料実費

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門

第3版第5刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識

第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。

A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う

第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●大口注文割引（ライオンズスクール・シリーズ）：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません）。※ただし、急ぎの場合は実費請求
■お申し込みはEメール（office@thelion.jp）またはファクス（03-3546-2630）でお願いします

LION MAGAZINE IN JAPAN
August 2015, Vol.58 No.2

We Serve CONTENTS

■2015年8月号
表紙
山田實紘
国際会長夫妻

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Dr. Jitsuhiro Yamada
Lions Clubs International
President

訳さなくても通じる言葉：WE SERVE（ウィ・サーブ）

“I am honored to serve as international president.”

日本語では「皆さんの国際会長を務めることを、大変光栄に思います」となります。“I look forward to a year of great service.”は「私はすばらしい奉仕の1年となることを楽しみにしています」。

では、日本のライオンズは「We Serve」をどう表現していますか？　そうです、そのまま「We Serve（ウィ・サーブ）」です。我々のモットーは訳さずとも通じます。世界中のライオンズが「We Serve」と誇り高く謳（うた）っています。私たちのモットーの普遍性は、言語や文化の違いにもかかわらず、我々ライオンズが共通の目的を分かち合っていることを強調しているのです。また、私は第98代目の国際会長であり、私の先任者たちもそれぞれ優先項目を掲げ、独自のやり方で取り組んできましたが、国際会長は奉仕に対する共通の決意を常に分かち合ってきています。

だからこそ私は、会長を務めるこれからの1年も例年と変わりなく、ライオンズが引き続き熱心に奉仕し、インパクトをもたらしてくれることを願っています。しかし同時に私たちの奉仕の在り方に違いをもたらしたいとも願っています。私は「人々に尊厳をもたらす奉仕活動」をテーマにしています。それは、メルビン・ジョーンズが最初にライオンズを結集させた時からライオンズの奉仕にもともと内在しているものです。しかしながら、私のテーマに意図的に目を向け、これを全面に出しておくことにより、確実に奉仕に対する我々の献身の意を維持するだけでなく、一層高めることが出来るのです。私のプログラムに関する詳細は、33㌻に掲載されている内容を読んでご確認ください。

医師として私は常に、患者を治療すること、そしてそれを患者の尊厳を重視しながら行うことに打ち込んできました。優れた医師は病気を治療するだけでなく、患者が抱えている心配事、懸念、苦悶など、患者のまるごと全部に注意を払います。長年医者をしてきて人をまるごと治療したかどうかと、もし尋ねられたとしたら、私はきっぱりと「もちろん」と答えるでしょう。しかし、私が医師としての自分のやり方を改めて見直したのは、大病をしてからのことでした。同様に、ライオンズとして私たちは奉仕に献身的に取り組んでいますが、そのやり方を見直し、私たちの活動全てにおいて他者の尊厳に注視することにより、奉仕を新たな高みへと引き上げることが出来るはずです。

今年度は特に子どもたちに尊厳をもたらすことに取り組んでくださるよう、各会員にお願い致します。奉仕事業またはプログラムを通じて、子どもたちの暮らしの改善に努めてください。140万人のライオンズが力を合わせて取り組めば、次世代が健康を保って繁栄し、チャンスを見つけ出して幸せをつかめるよう、手助けすることが出来るのです。

2015-16年度国際会長
山田實紘

※このメッセージの原文は国際協会公式ウェブサイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/about-lions/our-leadership/meet-the-leaders/presidents-message.php

特集

ホノルル国際大会

6月26～30日、アメリカ・ハワイ州ホノルルで開催された
第98回国際大会の模様を写真と共に詳しくリポート

取材／鈴木秀晃、河村智子、井原一樹

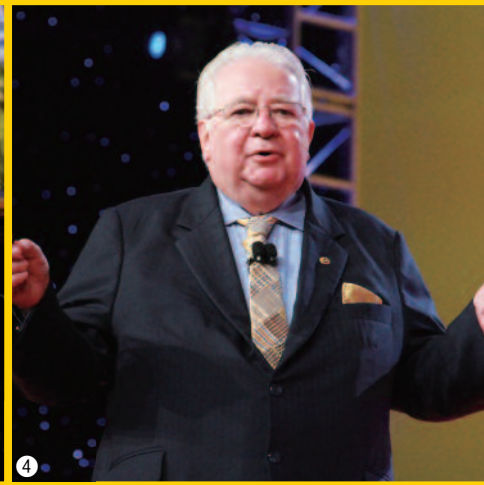
99th
LIONS CLUBS
INTERNATIONAL
CONVENTION
JUNE 24-28
2016
FUKUOKA
JAPAN
FCVB
Fukuoka Convention
&
Visitors Bureau
日本ライオン

JAPAN LIONS
JAPAN
JAPAN L
日本

Japan
1952, Tokyo

apan

LIONS INTERNATIONAL
LIONS

ホノルル国際大会：大会総会

❶歓迎あいさつをするカーク·コールドウェル ホノルル市長
❷第1回総会で基調講演をするスペシャルオリンピックスのティム·シュライバー会長
❸第1回総会で年次報告をするプレストン国際会長
❹第2回総会でLCIFの年次報告をするパーマー理事長
❺第3回総会で山田實紘国際会長就任を祝う祝電を披露する栢森新治元国際理事
❻次回福岡国際大会をアピールする高島宗一郎福岡市長

International President
2015-2016
Dr. Jitsuhiro Yamada
M.D.,Ph.D.

❶安井克之新国際理事（日本／331複合地区）
❷佐藤宜之新国際理事（日本／337複合地区）
❸ウンソク･チョン新国際理事（韓国／354複合地区）
❹ナレシュ･アガワル新国際第2副会長（インド）

山田實紘国際会長 就任演説

プレストン前国際会長、執行役員各位、国際理事会理事各位、元国際会長各位、ライオンズ、レオ、そしてご来賓の皆様……こんにちは。

たった今ここに会長の宣誓式を行い、皆様の国際会長を務めることとなりました。大変名誉なことであり、責任の重さに身の引き締まる思いであります。この1年間、究極の奉仕が出来るように、皆様と共にがんばっていく所存です。

皆さんが知っているように、ライオンズクラブ国際協会が誕生して本年で99年目を迎えます。210カ国に140万人の会員を有する、世界最大の人道的奉仕団体にまで拡大し、進化し続けてきたことに感激します。ここまでライオンズが発展したのも歴代のライオンズの熱い、熱い奉仕への情熱の賜物であると感じております。来年の100年祭を目前にして、今まで培ってきた信頼を更に深め、更にライオンズが輝くよう、奉仕の輪が広がっていくことを、切に希望致します。

ここで、私の人生で最も大切な人物に感謝を表さなければなりません。結婚生活もライオンズに似たところがあります。私たちはお互いに感謝をすることでより良い存在になり、そしてより多くのことを成し遂げることが出来ます。

心から、妻のサポート、思いやり、そして助言と愛情に感謝しています。言葉ではなかなか表現出来ません。利子、いつも私のそばにいてくれてありがとう。

本日より私は国際会長の役職に就くことになりますが、私一人が会長になったとは思いません。皆さんの代表として、一緒に、ライオンズを動かしていくつもりです。なぜなら、ライオンズはメンバー一人ひとりの奉仕によって成り立っているからです。

私たちは同じ船に乗って航海に出る仲間です。乗組員全員の思いが一つでなければ、正しく船を進めることが出来ません。各人が与えられた責任を全うし、専門性を生かし、スムーズにスピーディーに奉仕する、という目的地に向かって船を進めていくのです。このためには、一人ひとりがリーダーであると自覚する必要があるのです。

本年の私のロゴマークは鶴です。この鶴はアネハヅルという世界最小の鶴です。夏にはモンゴルの高原で子育てをしながら過ごします。冬が近づくと越冬のためにヒマラヤ山脈を越えてインドに渡ります。皆様ご存じの通り、ヒマラヤ山脈は、8千メートル級の山々が連なる、地球上で最も標高の高い地域です。酸素も薄く、風も強い、零下30度の過酷な環境の中での大飛行です。どうしてそんなことが可能なのでしょうか。実は、アネハヅルの知恵と協力体制が、この決死の大飛行に大きく寄与しているのです。渡りをする時、アネハヅルはV字型編隊を組みます。当然V字の先頭に立つ鶴がリーダーであり、編隊を牽引していきます。後ろを飛ぶ鶴は、先を行く鶴が起こす上昇気流を利用し、体力の消耗を抑えることが出来るのです。リーダーである先頭の鶴に疲労が見えてくると、体力を温存した仲間が牽引役に付くのです。こうしたチームワークがヒマラヤ越えを可能にしているのです。

これは私たちのライオンズクラブが行っているチームワークと同じだと思いませんか？　このアネハヅルと同じように、私たちも新しい会員を育て、一年一年リーダーを変えながら、まさに1世紀という大きな山脈を越えようとしているのです。一人の力は限られていても、皆が集まればすばらしい成果を上げることが出来るのです。新しい会員を育て、互いに協力しながら、人道的奉仕に貢献する機会に恵まれていることに大きな幸せを感じます。

さて、私は、脳神経外科医として45年間、人の命を救ってきました。寝食を忘れて患者の治療に当たってまいりました。1年間で100人くらい助けてきたとすると、50年間で4千～5千人くらいの命を助けたことになるのでしょうか。一方で、ライオンズはたった1年間で5千万人、場合によっては1億人の命を助けています。例えば、ワンショット・ワンライフのアクティビティでは、この2～3年で既に数億人の子どもたちの命を救っています。私は、医師として一人で出来ることの限界と、多くのライオンズが協力することで成せる、無限の可能性を感じました。

私は、ライオンズの偉大さを知っています。ライオンズが長い歴史の中で行ってきた奉仕のすばらしさを知っています。そしてライオンズの前に広がる洋々たる未来を感じます。実は、恥ずかしい話ですが、私はライオンズを退会しようと思った時期がありました。ここでちょっとそのことをお話ししましょう。

私がライオンズに入って2年目くらいの時でした。当時は、例会にはネクタイを着用し、バッジをつけて出席しなければならない、遅刻厳禁、等のクラブ規律がありました。今で

もそういう堅いクラブもあるようですが……。ある例会の日、緊急手術が入り、術後、手術室から仕事着のまま駆けつけました。到着するなり、背広を着ていないことと バッジをつけていないことを咎められました。人助けをしていたのに、遅刻したからという理由でファインを取られたのです。若い私は、形式的なことばかり重視するライオンズに不信と怒りを感じ、こんなクラブ、もう辞めようと思ったのです。でもやはりライオニズムは好きなわけです。そこで、規則にとらわれない、自分なりのライオニズムに則った奉仕活動が出来ないだろうか、模索してみました。

当時、日本では、献腎・献眼・献血運動が盛んでした。私は脳神経外科医として、時々脳死の状態にある患者さんに出会う場面があったので、そういう患者さんに対して、私の出来ることはこれだ、と思い浮かんだことがありました。それは、脳死状態にある患者の家族の方と、臓器移植を心待ちにしている患者さんとのコーディネートをする、ライオンズの臓器移植プログラムに力を入れました。移植コーディネーターとして、命の橋渡しを務めることは、まさしくライオンズとして私の果たすべき役割であり、使命であると感じました。その結果、ドナー側の人々、レシピエント側の人々に喜んでもらうことが出来ました。これは自分自身のプロフェッショナルな面を生かしたアクティビティになったわけです。ですから、皆様には、自分の持てる知識や得意とすることを奉仕活動に結び付けることによって、生涯を通した有意義なアクティビティになる、ということをぜひ知って頂きたいと思います。あなたの特性を生かせる奉仕のニーズはいっぱいあるはずです。そう考えれば、ライオンズを辞めたいなどと考えることはありえないわけです。そして現在の私があるのです。

さて、ライオンズには210カ国の人々が参加しています。皆一人ひとりそれぞれの文化を持っています。私たちはそれぞれの文化をライオニズムに持ち寄り、そしてライオニズムをより強くすることに貢献しています。私たちの多様性は、私たちの強さの源泉でもあります。

日本では、サムライの生き方の指針とされた「武士道」という精神が、人生の価値観に大きく影響しています。忠義を重んじ、年長者を敬い、弱者をいたわり、情けを大切にします。また、誠と名誉を重んじるという伝統的価値観です。この価値観はライオンズ・スピリットとぴったり一致すると私は考えます。一般に世界ではサムライについていろいろな捉え方があると思いますが、サムライは秩序を維持し、平和を守る存在であり、他人の尊厳を大切にします。ですからライオンズの皆様、そういった意味で、私は皆様にもこの1年間サムライ・ライオンズになってほしいと思います。しかし刀は家に置いたままサムライ・スピリットだけを持って出かけて奉仕活動をしてください。日本刀はよく切れますから。

また日本には古くからのことわざや格言が多くあり、ライオンズにもよく合うことわざが幾つかあります。例えば私の好きなことわざの一つは、「虎穴に入らずんば虎児を得ず」というものです。アメリカならば"nothing ventured, nothing gained"というところでしょうか。要は冒険を怖がっていたら何も達成出来ない、という意味です。これはクラブにとっても重要なことです。新しいプロジェクトや新しいメンバーの勧誘方法を

恐れないでください。私たちは古いパンや古いご飯を食べたくないのと同じように、新しい人々は古臭くなったようなクラブには入りたくないはずです。いつも新しく若々しく新鮮なクラブに変えていく勇気を持つことが大切なのです。

もう一つことわざを紹介しましょう。「三本の矢」、これは、毛利元就というサムライが彼の3人の子どもたちに団結することの重要性を説いた話です。矢1本なら容易に折れてしまいますが、3本となった時はなかなか折れない。3人が力を合わせて強靭に生きよ、と説いたのです。私は、この三本の矢の教訓をこのように解釈しています。矢1本なら、つまり私たち一人では、出来ることは限られています。でも矢が3本そろえば、つまり家族が力を合わせれば、大きな奉仕が出来るのです。家族が力を合わせれば、大きな喜びが生まれるのです。140万人のライオンズ・ファミリーが力を合わせれば、地球上のいたるところに奉仕の光を届けることができるのです。我々には、その力があるのです。

もう一つのことわざは「温故知新」です。中国の孔子の言葉で、故きを温ねて新しきを知る、という意味です。この考え方は、私たちのライオンズの紋章にも表れています。私たちのライオンズの紋章には2頭のライオンが描かれています。一つは過去を、もう一つは未来を見つめています。本年はこのライオンズの紋章のように、一方では一世紀を振り返り、良いものは残し、古くなったものは切り捨て、100年目を新たなスタートと位置付け、未来に向かっての計画を練るのにふさわしい時です。

ことわざを研究するのは楽しいものですが、もちろんこれが実際に問題を解決してはくれません。その道を示してくれるということです。実際にその道へと自分たちが進めるかどうかは自分たちライオンズの行動力次第です。

さて、そろそろ私の本年度のテーマについて触れることに致します。

今、ライオンズは世界の隅々で、すばらしい奉仕をしています。多くのすばらしいプロジェクトを全て話すことは出来ませんが、最近の一例を紹介しましょう。

皆さんご存じのとおり、今、シリアでの内戦は、一般市民を巻き込み破滅的状況になっています。12万人もの多くの人々がシリアを離れ、難民となり、シリア国境に近いレバノンのアルサイという所に散在するキャンプに暮らしています。この地域は高い山岳地域にあり、雪も降り身を切るような寒さの中、子どもたちは裸足で暮らしているのです。その場しのぎのテントには、暖房設備はありません。食糧や薬も不足しています。命の安全も保証されない日々を送っているのです。

しかし、そこにもライオンズの手は差し伸べられているのです。レバノンのライオンズとノルウェーのライオンズが協力して、トラック14台分、6万人の子どもたちに行き渡る量の衣類を届けました。トラックの到着を見た母親たちはどうしたでしょう。駆け寄って喜びに涙を流しながら手を伸ばしました。ライオンズがいなければ、ライオンズの勇気がなければ、思いやりと、子どもたちへの愛情がなかったら、この難民の方々には希望は全く無かったのです。これがまさしくライオンズです。

この会場の中に、レバノンのライオンズの方はいらっしゃいますか？ ノルウェーのライオンズの方はいらっしゃいますか？ Any Lions from Lebanon? Any Lions from Norway? いらっしゃったら立ち上

がってください。皆さん、この二つの国のライオンズに盛大な拍手を送りましょう。

さて、私たちは毎朝起きると当然のように朝食を取り、何不自由なく一日を送ります。しかし、世界には8億人もの飢餓に苦しんでいる子どもたちがいることを皆さんは知っていますか？　朝食の匂いもない、ひもじい日々を送っている子どもたちのために、私たちは行動を起こさなければなりません。そのためにライオンズがあるのです。

これは私の孫娘たちです。心から愛おしく思っています。家を離れている時には、いつもこの可愛い顔を思い浮かべます。私たちは皆、それぞれの子どもたちを愛しています。またライオンズ会員として、他人の子どもたちにも喜んで助けの手を差し伸べています。

今年度、私はライオンズに特に子どもたちへの支援を呼び掛けたいと思います。助けを必要としている子どもたちへの奉仕活動を、今年のライオンズ活動にとって、最優先の奉仕活動にしたいと思います。子どもの尊厳に焦点を当てたいのです。そして平和を築き上げたいと考えます。

例えば、治療可能であっても経済的な問題から失われる命があったとしたら、それは大変なことです。生きる喜びや死の怖さも知らない病気の子どもたち、それを抱える家族への精神的支援等も必要です。難民キャンプで生活する子どもたちの尊厳をどのように守っていくかも大きな問題です。飢えている子どもたち、貧困からの脱却への支援も必要です。貧困の問題は、発展途上国だけの問題ではありません。世界最大の経済大国であるアメリカでさえ、また日本でさえ、貧困層は確実に広がっているのです。親の世代が貧困であると、その子どもたちが貧困から抜け出せない社会を、何とか変える必要があります。我々はこの悪循環を断ち切らなければなりません。「子どもの尊厳イニシアチブ」は、こうした問題に取り組むものです。未来ある子どもたちのために支援するほど、やりがいのある奉仕活動が他にあるでしょうか。

本日ここにお集まりの一人ひとりの皆さんに、お願いします。今年、子どもたちに尊厳をもたらしてください。プロジェクトやプログラムを通して、幸せを知らない子どもたちにライオンズの手を差し伸べてください。

今年度、私の国際会長テーマは、「Dignity. Harmony. Humanity.」です。この意味は、人間の命は皆平等であるという哲学のもとに、国際協調の中で人類の平和を探求する、ということです。

「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」。これは「世界人権宣言」第1条の言葉であります。不幸にして、恵まれない環境下に生を受けた子どもに罪があるでしょうか？ 私は、幸福は分かち合わなければならないものだと信じています。

私たちライオンズはさまざまな国籍、さまざまな文化から成り立っています。しかし、奉仕と子どもたちへのコミットメントにおいては一つです。今年、皆さんの活動が大きな成功を収め、今年が皆さんと皆さんのクラブにとってすばらしい年になることを信じています。

本日ここに、私は、2015‐2016年度国際会長として立ち上がりました。皆さんと一緒に全力を尽くしましょう！ 共にがんばっていきましょう!!

ご清聴、ありがとうございました。

Thank you. Mahalo. Thank you very much.

国際会長ホームクラブとして

岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ会長 西野章司

閉会式後に行われた国際会長のホームクラブ・バナー交換式。プレストン前国際会長のホームクラブから山田会長のホームクラブにバナーが引き継がれた

山田實紘国際会長誕生というこの時に立ち会えたというのは最高の経験です。暑いハワイにはるばるやってきて、国際会長の就任宣誓を拝見し、ホームクラブとしてバナーを受け取ったことは感無量です。我々にとっては一生に一度の体験だと思いますし、このタイミングで美濃加茂ライオンズクラブに所属していたことで、非常に良い経験をさせて頂きました。

ただ、その分、私たちも責任ある立場で未来に向かわなければいけません。美濃加茂ライオンズクラブはこれから国際会長のホームクラブとなります。就任演説でおっしゃっていたように山田国際会長には「ライオンズを新しく変えていく」という方針があります。私ども美濃加茂ライオンズクラブが、その先頭をきって進んでいきたいですね。どこのクラブにも敷居が高かったり、古い体質が残っていたりします。ですが、それでは若い人が入ってこられない。だから、若い人たちを入れるにはどうすればいいかを真剣に考えていかなければいけません。新しい血をどう入れるか、ですね。

クラブによってそれぞれやり方は違うと思いますが、国際会長の方針に従って、組織の若返りを図っていく必要があるんです。

例えばもう少しフランクにアクティビティを実施してもいいのかもしれません。気軽に参加出来る活動を実施することでライオンズの認知度が上がり、市民権が得られることもあると思います。

もちろん、今までも地域に対してアクティビティを実施してきたわけなんですが、ライオンズクラブが何をやっているのか、という認知度が低いんですよね。それは何が原因だったのか、それを考え、更に地域のニーズに応えたアクティビティを実施していくことが重要かな、と思うんです。

「ああいう活動をやっているのか。なら入ろうかな」と思ってもらえるようなアクティビティですね。ライオンズって、入ってみると分かることってたくさんあるじゃないですか。なので、きっかけとなる何かがあれば少し変わると思うんです。

山田国際会長が常々言われていることをホームクラブとして真っ先に実施していく。そしてこの美濃加茂ライオンズクラブからゾーンの各クラブに、リジョンに、地区に、とどんどん広がっていくように情報発信をしていきたい。今期の印田毅334‐B地区ガバナーとも、そのようにやっていけたらと話しています。（談）

ホノルル国際大会点描

■30日午前11時半／第3回総会（閉会式）

「皆さんにはこの1年間、サムライ・ライオンズになってほしい」

国際大会最終日、閉会式の終盤、就任演説を行う山田實紘国際会長の言葉に、会場から大きな拍手が湧き起こった。「忠義を重んじ、年長者を敬い、弱者をいたわり、情けを大切にし、誠と名誉を重んじる日本の武士道精神は、ライオンズ・スピリットと一致する」と語る山田国際会長に、会場中央を埋めた日本の会員はもちろん、世界中の会員が賛同を示した。

その少し前、居並ぶ元国際会長に見守られながら、山田新国際会長はステージ中央でジョー・プレストン前国際会長と向き合い、厳粛な面持ちで就任の宣誓を行った。宣誓に続いて国際会長の指輪とその権威の象徴である槌を受け取り、引き継ぎが完了。山田新国際会長は右手に握りしめた槌を高々と頭上に掲げ、晴れやかな笑顔で会場の歓声に応えた。

続いて、日本人国際会長の就任に寄せられた祝電を栢森新治元国際理事が紹介。安倍晋三首相、岸田文雄外務大臣、麻生太郎副総理、キャロライン・ケネディ米駐日大使、古田肇岐阜県知事、張富士夫トヨタ自動車

名誉会長からの祝電が読み上げられた。

山田新国際会長は国際会長の槌と同時に総会のホスト役も引き継いだ。進行は英語で進められたが、就任演説（18～23㌻全文掲載）だけは終始日本語で行われた。間もなく100周年を迎える国際協会の歴史上、国際会長の就任演説が英語以外の言語で行われたのはこれが初めてのことだろう。演説の英語字幕は会場の大型スクリーンに表示され、各公式言語の同時通訳が通訳用ラジオで流された。日本語の演説が始まった時、わずかに戸惑いが広がったように感じられたが、静まった会場の皆がステージ中央で語り掛ける山田新国際会長の言葉に耳を傾けていた。派手なパフォーマンスで聴衆を湧かせるわけでも、スピーチのテクニックに長けているわけでもない。しかし、子どもたちの尊厳を最優先の奉仕活動に掲げる自らのテーマと、100周年を前に重要な役割を担う第99代目国際会長としての決意を真摯に語る山田会長の言葉は、世界のライオンたちの胸に確かに届いていた。

■27日午前9時／インターナショナル・パレード

大勢の観光客が行き交うワイキキ

のメーン・ストリート、カラカウア通り。神官による清めの儀式が済むと、国際大会の開幕を飾るインターナショナル・パレードがスタートした。最高気温29度と予報されたこの日は快晴に恵まれ、朝から強い日差しが照りつけた。山田實紘国際第1副会長を擁する日本は、プレストン国際会長の地元アメリカ・アリゾナ州、パーマー前国際会長の地元オーストラリアに続いて3番目に登場。パレード・ルートの中盤に設けられた審査員席では日本の登場をアナウンスし、「冗談だと思われるでしょうが、日本からは4千人のライオンズがこのホノルルに来ています」と紹介した。国際協会の出したニュース・リリースには国際大会参加者は2万人以上とあり、日本からの参加者は全体の約2割ということになる。地元の和太鼓チームと、次回福岡国際大会をPRするエイサー・チームがにぎわいを添えた隊列は２５００人を超え、青い法被と日の丸の隊列がカラカウア通りを埋めた。

日本のメンバーは早々に行進を終えたが、２００の国と地域が参加するパレードは午後1時まで続いた。各国のパレードにはそれぞれ定番のスタイルがある。合同で隊列を組む北欧4カ国は高々と掲げた国旗の隊列に民族衣装の女性が続き、全員で合唱しながらの行進。アメリカ・ルイジアナ州のライオンたちはマルディグラのカーニバルを模してビーズの首飾りを配り歩く。トリコロール・カラーの傘と衣装でエレガントに行進するフランス、抜群のリズム感で歌い踊るアフリカのライオンたちの躍動感には見ほれてしまう。自ら楽しみながら沿道も楽しませるという点では、日本のパレードは物足りないというのが正直なところ。見物客の間からは「日本は大勢いるけど、ただ歩いてるだけで面白くないね」という残念な声も聞こえてきた。来年の福岡国際大会では、開催国そして国際会長の出身国の面目躍如となるパレードを披露したいところだ。

■28日午前10時／第1回総会（開会式）

開会式の冒頭、歓迎あいさつを行ったカーク・コールドウェル ホノルル市長は、シリアでの人道活動中にIS（過激派組織「イスラム国」）に拘束され26歳の若い命を奪われたケーラ・ミュラーさんが家族に宛てた手紙の一節を紹介。更に今年は沖縄戦の終結、そしてアメリカによる広島、長崎への原爆投下から70年目という重要な年であることに触れ、世界平和と非暴力の願いを口にした。

今大会の総会では、世界情勢に深刻な陰を落とすシリア内戦が度々話題に上った。閉会式ではプレストン国際会長がミュラーさんに哀悼の意を捧げた後、子どもの権利保護のために活動する国際NGOセーブ・ザ・チルドレンに人道主義大賞を授与。キャロリン・マイルズ代表は受賞スピーチで、シリア紛争で多くの子どもたちが犠牲になっている現状を語った。同じく閉会式で行われた山田国際会長の就任スピーチでは、シリア難民の子どもたちに支援物資を届けたノルウェーとレバノンのライオンズの活動が紹介された。山田国際会長は両国ライオンズの勇気と思いやりをたたえ「未来ある子どもたちを支援するほどやりがいのある奉仕活動はない」と述べた上で、今年度のテーマ「命の尊厳と和」が意味するのは、国際協調の中で人類の平和を探求することだと力説した。

■29日午前9時半／第2回総会

第2回総会の開会を前に、会場入り口では国際第2副会長候補者2人の各陣営が、プラカードを手に支持を訴えた。

この日の総会ではバリー・パーマーLCIF理事長による年次報告に続き、国際理事候補者17人と国際第2副会長候補者の立会演説会が行われた。国際理事には六つの会則地域全てが定員と同数の立候補となったが、国際第2副会長の選挙には4月末の時点で7人が立候補を表明。このうち女性候補2人を含む5人が大会前に立候補を取り下げ、昨年に続いて候補者2人の決戦となった。一人はレバノンのサリム・ムサン元国際理事、もう一人はインドのナレシュ・アガワル元国際理事だ。各候補者の演説後に行われる支持者のデモンストレーションでは、インドの大応援団がレバノンを圧倒した。

国際第2副会長を含む執行役員と国際理事の選挙と、国際会則及び付則の改正案5項目の賛否を問う代議員投票は、大会最終日30日午前7時半から実施。前日午後5時までに資格証明を行った代議員は５３０８人、補欠代議員は２９０人の計５５９８人となった。これは例年を10％上回る登録数で、投票日の朝、ハワイ・

インターナショナル・ショーはケニー・ロギンス、スティーヴ・オージェリー、ミッキー・トーマスが共演

コンベンション・センターは4階に設けられた投票場まで長蛇の列が出来た。

代議員数は国別ではアメリカが最も多く1320人（補欠代議員104人）。2番目は日本で代議員907人（補欠35人）、3番目のインドは代議員821人（補欠28人）だった。34年ぶりの国際会長就任の瞬間に立ち会おうと大挙して参加した日本だが、代議員数はライオン山田が国際第2副会長選挙に臨んだドイツ・ハンブルク国際大会での1004人（補欠44人）には及ばなかった。

代議員投票の結果は第3回総会（閉会式）での山田国際会長の就任演説後に発表され、国際理事会の推薦を受けていたアガワル元国際理事が2944対1734の大差で当選を果たした。これにより2017年のシカゴ国際大会でインドから3人目の国際会長が就任することになる。

国際理事には東洋・東南アジア地域では日本のライオン安井克之（331複合地区）とライオン佐藤宣之（337複合地区）、韓国のライオンウンソク・チョン（354複合地区）の3人が当選。インド・南アジア・アフリカ・中東地域では過去7年間で会員数を倍増させて急成長を遂げているネパールから初の国際理事が当選した。

■30日正午／第3回総会（閉会式）

閉会式の終盤、山田新国際会長はホノルル国際大会のロバート・K・Y・リー ホスト委員長と次回福岡国際大会の不老安正ホスト委員長を舞台に招き、両者によるバナーの引き継ぎが行われた。続いて舞台に招じられたのは高島宗一郎福岡市長。福岡ライオンズクラブの会員でもある高島市長はこの日午前中にホノルルに到着して会場に駆けつけ、世界のライオンズに福岡の充実した都市機能と温かなホスピタリティー、そして食の魅力をアピールした。

大会期間中、ハワイ・コンベンション・センターの展示場内に設けられた福岡国際大会のPRブースは、用意していたPRグッズが早々に無くなるほどの盛況だった。29日午後に行われた福岡国際大会のプレゼンテーションの会場は海外のライオンたちで満席に。福岡のPRビデオの上映に続いて獅子舞や日本舞踊が披露されると、興味深そうに見入っていた。

第99回国際大会は2016年6月24〜28日の日程で開かれ、世界のライオンズが福岡に集う。日本のライオンズにとっては、国内開催の大会を日本人国際会長が主宰するまさに記念碑的な国際大会となるはずだ。

❶日本ライオンズ代議員会･朝食会　❷国際役員候補者が所信表明をしたコーカス･ミーティング　❸スペシャルオリンピックスのスポーツ･プログラム「ボッチャ」　❹大会期間中にはコンベンションセンターで、さまざまなセミナーが開催された　❺❻国際エッセー･コンテストと国際平和ポスター･コンテストの最優秀賞受賞者によるサイン会　❼大会期間中、コンベンションセンター内で行われた投票で環境写真コンテスト最優秀賞を獲得したアメリカの女性会員　❽交換ピン･コーナー　❾❿コンベンションセンターの中には参加者を楽しませるさまざまなコーナーが設置された　⓫⓬糖尿病予防のためのライオンズ･ストライドは初めての試みとしてズンバが採用された　⓭福岡国際大会PRブース　⓮次回国際大会開催地･福岡の文化を紹介する会場は立ち見も出る大盛況　⓯閉会式でホノルル国際大会ホスト委員会委員長から大会バナーを受け継ぐ福岡国際大会ホスト委員会委員長の不老安正元国際理事（右）

地区ガバナー・エレクト・セミナー

2015年6月24日～26日　ハワイ・ホノルル

地区ガバナー・エレクト（DGE）セミナーは6月24日から26日までの3日間、ホノルルのヒルトン・ハワイアン・ヴィレッジを主会場に行われた。国際大会直前のこのセミナーで、DGEはリーダーとしての役割や責任を学んで最後の準備を整え、就任の時を迎える。

24日午前8時半から開かれた開会式は、DGEセミナー委員長のソムサクディ・ロヴィス元国際理事（タイ）のあいさつで始まり、山田實紘次期国際会長は力強い演奏を披露した地元の太鼓チームに混じってバチをふるい、サプライズ登場。陣羽織姿で歓迎スピーチを行い「私たちが力を合わせれば、変化をもたらすことが出来ると確信しています」と呼び掛けた。

開会式後は言語別グループに分かれて教室でのセッションが行われた。日本のDGE35人が学ぶ日本語グループは、鈴木誓男元地区ガバナーがグループ・リーダーを務めた。初日のセッションは「チームワーク」「モチベーション」「コーチング」をテーマに共同作業やロールプレーを組み込んだ内容で、教室内にはリラックスした雰囲気が醸成された。

2日目は朝の全体セッションで山田次期国際会長が自らのテーマ「命の尊厳と和」を発表。最重要の奉仕活動として「子どもの尊厳イニシアチブ」を挙げ、病気、紛争、飢餓によって苦しむ子どもへの支援や、リーディング・アクション・プログラムによる教育支援など、子どもの尊厳を守る活動に取り組もうと強く訴えた。また、国境を越えた合同奉仕の実施を推奨し、このセミナーの機会を利用して海外の地区ガバナーと交流を深め、奉仕活動での連携を図るよう求めた。続いて行われた教室でのセッションでは、この国際会長テーマに対する理解をより深める課題の他、「課題と機会」や「革新的奉仕」などのテーマでグループ・デ

ホノルル国際大会：地区ガバナー・エレクト・セミナー

❶6月26日のDGEセミナー閉会式でスピーチを行う山田實紘次期国際会長。ステージ後方にある千羽鶴は、DGEが次年度に向けた意欲や決意を書き記して折り上げたもの。グループごとに一つにつなげて山田次期会長に贈られた

❷折り鶴には日本のDGEもかなり苦戦していた

❸グループ・ディスカッションでは各自の経験談を交えながら議論が行われた

❹2日目には英語グループとの交換セッションがあり、それぞれ代表5人が相手グループの教室を訪問した。英語グループはアメリカ、パプアニューギニア、バングラデシュ、東チモールなど多国籍。日本の代表5人の発表に大きな拍手が贈られた

イスカッションが行われ、提示された具体例に対する対応策や地区ガバナーが果たすべき役割について話し合った。

セミナー最終日のセッションのテーマは、「多様性を受け入れる」と「ライオニズムを広く伝える」。「多様性～」のセッションでは、会員の高齢化や、アクティビティの中心になる会員の固定化など、多様性が失われることがクラブの停滞を招く要因になるとし、いかに多様性を確保し、受容するかについて議論がなされた。ライオンズのPRに関する課題は、フェイスブックに代表されるソーシャル・メディアに絞った内容で、各地区の取り組み例を挙げながら活用方法が検討された。

このセミナーは世界共通のマニュアルに沿ったスキルの習得に主眼が置かれている。日本のDGEからは、地区の懸案や悩みを語り合い、情報を交換する時間がもっとほしかった、という声も聞かれた。とはいえ、世界のDGE745人が共に学ぶことで国際役員としての自覚と責任感を高め、また日本のDGE35人の間に強い連帯感が生まれたことは間違いない。セミナーを修了したDGEは、地区の成功への強い決意を胸に新年度へ歩み出した。

ホノルル国際大会日本語セミナー

6月28日の日本語セミナーは、会場に用意された席が全て埋まり、予備の椅子を出さなければならないほどの盛況ぶり。山田實紘国際第１副会長が３日後に迫った国際会長就任を前に抱負を語ると、会場から割れんばかりの拍手が巻き起こった。続いて司会を務める清水英徳国際理事がプラハ理事会の結果を報告した。

セミナーのメインテーマは「家族及び女性チーム（ＦＷＴ）の役割」。昨年10月の国際理事会で東洋・東南アジア、インド・南アジア・アフリカ・中東両地域のパイロット・プログラムとして承認されたＦＷＴについて、333複合地区ＦＷＴコーディネーターの長澤千鶴子元地区ガバナーがプレゼンテーションを行った。

ＦＷＴはライオンズにおける女性と家族会員の増強、リーダーの育成、女性や家族の視点から奉仕の創造、発見、そして活動への参加促進を目指す組織。日本の女性会員比率を世界レベルに引き上げることを目標としており、長澤コーディネーターは１年で達成することを目指していると熱く語った。ＦＷＴでは、日本の子どもの貧困率が先進国でも非常に高いことに注目。恵まれない子どもに愛の手を差し伸べる活動と、視力の奉仕活動を、女性や家族会員が自宅でも出来る奉仕活動として位置づけ、共に活動してもらえる運動を展開中だという。また、10月21日には、ＦＷＴの内容説明と、会員交流を目的にＦＷＴジャパン・シンポジウムの開催が予定されている。長澤コーディネーターは各地区、クラブでＦＷＴの役職につくメンバーに、一般メンバーへの周知とモチベーションアップの重要性を訴えた。

その後、１００周年記念事業についての最新情報や、実施の流れを１００周年実行委員会会則地域副委員長の高田順一元国際理事が説明した。また、１００周年記念奉仕チャレンジのＭｙＬＣＩへの報告方法を国際本部太平洋アジア課の大塚尚さんがレクチャー。この１００周年の記念事業にのっとったアクティビティを実施しても、報告をしなければ、本部の集計からもれてしまい、アワードも受けられないため、皆熱心に耳を傾けていた。

命の尊厳と和 奉仕を通じて

2015-16年度 ライオンズクラブ国際協会
国際会長 **山田實紘**

毎年、何千羽もの小さな鶴の群れが、高度8千メートルを超えるヒマラヤの山々を、V字型を描きながら渡っていきます。アネハヅルと呼ばれるこの鳥は、鶴の中では最も小さい種類の一つです。夏はモンゴルの草原に生息し、冬が近づくと、群れをなして南方のインドに向けて旅立ちます。高度8千メートルでは、気温は零下30度、酸素の量は通常の3分の1以下に落ち込みます。この過酷な環境は、彼らの移動をまさに生死を賭けたものにしています。

少数の鳥が、この困難なルートを渡ることは不可能です。大きなV字型を描く一群として飛び、前方の鳥が生み出す揚力を後方の鳥が利用することで、全体のエネルギーを抑制することが可能です。そして、リーダーのポジションは最も体力を要するので、順次交代し負担を配分することが必要となります。アネハヅルは、群れの全員が協力し、調和によってこの飛行を可能にしているのです。一羽一羽は小さいけれども、全ての鶴が見事なまでに尊厳を持って生きています。

この鳥が示す決意と、チームワーク、家族のつながりといった特徴は、さまざまな文化圏で敬愛されてきました。日本では、鶴は伝統的に長寿

ヒマラヤ山脈を越えてゆくアネハヅル

命の尊厳と和

平和、希望、信念、チームワーク、そして奉仕を通じて世界を一つにすることが、私の国際会長としてのテーマの中心となる要素です。

日本の折り紙

のシンボルとして知られています。日本の折り紙では、鶴は最も基本的で一般的な形なので、子どもたちは誰でもその作り方を教わることになります。また日本には、病気やけがに苦しむ大切な人のために、「早く回復し、元気で長生きをしてほしい」という願いを込めて、折り鶴を贈る習慣があります。鶴を折るという作業は、友人や家族の病が治り、再び元気になることを心から願う癒やしの効果がある行動だと言えます。そしてまた、鶴は日本だけでなく世界中の国々で、平和の象徴としても知られています。

　私たちライオンズは奉仕活動を通じ、あらゆる人々に希望と尊厳を持って生きる機会を提供することによって、国際的な平和と調和を育んできました。医師として、私は人間の命の尊厳を守ることを仕事としてきました。しかし、一人の医師がその一生の仕事で助けられる命はおそらく1万人程度に過ぎません。それに対し、私たちの国際協会は、奉仕プログラムに一緒に取り組むことで、毎年何千万もの命を救うことが出来るのです。

私たちには、科学的なものとそうでないものを含めて、恐らく答えが決して見つからないであろう疑問が数多くあります。しかし、一つ確かなことがあるとすれば、人間の尊厳というものは、特別な誰かだけの特権であってはならないということです。そして人間が自らの尊厳を保つために必要な基本の一つは、自分自身と家族を養うことが出来るということでしょう。想像してみてください。空腹のまま眠らなければならない子どもたちを、見ていることしか出来ない親の気持ち、子どもが治療可能な病気にかかっていると診断されたのに、その治療を受けさせることが出来ない親の気持ちを。何百万もの人々が、毎朝、その日子どもたちに食事を与えたり、必要な医療が与えられるか分からない状態で目覚めています。彼らはいつも不安定な明日におびえ、自分と子どもたちに、より確かな未来があるという希望を持てない状態にあります。

子ども時代は、楽しい思い出にあふれた幸せな時であるべきです。家族とのバケーション、祝日のお祝い行事、台所から流れてくる懐かしいおいしそうな匂い、友だちと一緒に読んだお気に入りの物語。そして子ども時代はまた、それを支援するネットワークの下で、将来のための準備と学習に費やされる時間であるべきです。

しかし多くの子どもたちには、学校が存在せず、支援のネットワークも存在しません。今日、世界の約22億人の子どもたちのうち、およそ10億人が貧困の中に暮らしています。貧困は大変につらい状況を子どもたちにもたらします。貧しい住環境、ホームレス、栄養失調、不安定な食

人々に尊厳をもたらす奉仕活動

「私たちを行動へと突き動かすべきは人間の尊厳。それは抑圧された者からも奪い取れない尊厳であると共に、我々一人ひとりが持つ尊厳でもある。許されざるべきを許してしまった時に、我々は尊厳を失うのだ」（作者不詳）

事の供給、学業不振（仮に教育の機会があっても）、医療の不足、その他、私たちの多くが当然のように享受してきたものが、与えられていません。そしてこれは、発展途上国だけの問題ではないのです。

子どもたちは、私たちの未来であり明日の担い手ですが、誰よりも私たちの助けを必要としている存在です。そのため、子どもたちのための奉仕は、今年も重点事業として継続します。毎日、何千もの子どもたちが治療可能な病気、飢餓、清潔な飲み水が無いなどの理由で死んでいきます。その親たちは、子どもたちを救うための頼れる施設が無かったり、お金が無かったり、またはその両方の理由で、なす術もなく子どもたちが死んでいくのを見ているしかありません。私は子どもたちの、必要のない苦しみを減らす手助けがしたいのです。

私たちには、全ての子どもを救うことは出来ません。しかし、これまで行ってきた活動を強化し、拡大するだけでも、子どもたちに幸せをもたらすことは出来ます。だからこそ、私は今年、「子どもの尊厳イニシアチブ」を提唱します。このイニシアチブの下、ライオンズに次のような奉仕活動の拡大を通じての奉仕を奨励します。

- 病気と闘う子どもたちを支援し、元気を与える
- 難民キャンプで生活する子どもたちのニーズへの奉仕
- 空腹な子どもたちに重点を置いたプロジェクト
- リーディング・アクション・プログラムの継続

以上は、子どもたちのニーズに応えるさまざまな奉仕の機会のごく一部の事例です。

「子どもの尊厳イニシアチブ」についてのより詳しい情報は、国際協会の公式ウェブサイトlionsclubs.org から入手出来ます。

他者に奉仕すること。ライオンズにとって、これはただのお題目ではありません。私たちの組織は、まさにこれを基本に創設されたのです。私たちの奉仕の伝統は続き、そして実際に、コミュニティーと変わりゆく世界のニーズを満たすために成長してきました。しかし、私たちはただ奉仕をするだけではありません。ただ食糧や、シェルターなどの必要なものを与えるだけではないのです。私たちが与えるのは希望です。今より明るい明日を人々に与えている、つまり、我々は尊厳を回復させているのです。

しかし、私たちには今よりももっと出来ることがあるはずです。ライオンズクラブは間もなく１００周年を迎えます。この１００周年に合わせて掲げた「１００周年記念奉仕チャレンジ」は、野心的な取り組みです。今から２０１８年６月30日までの間に、青少年、視力、飢餓、及び環境の四つの分野で1億人に奉仕を提供するには、これらの分野で現在行っている奉仕活動を3倍にしなければならないということなのですから。しかし、我々にはそれが可能なはずです。ライオンズはこれまでに幾度も、恵まれない人々のための挑戦であれば、喜んで取り組み、目標を上回る成果を上げることが出来ることを示してきました。１００万本の木を植えるという挑戦に対し、ライオンズはそれに10倍の結果で応えました。このような事例は数え切れないほどあります。

他者への奉仕は世界を変えることが可能です。考えてみてください。他人のために奉仕をすることは、調和、理解、そして平和の種をまいているということです。私たちの奉仕活動――視力を保護し、はしかから子どもたちを守り、空腹を満たし、木を植え、そしてその他多くの活動――は、ヒューマニティーを強化し、お互いへの理解と絆を作り上げる行為なのです。

調和・奉仕を通じた相互理解

　人類学者は、世界に何百もの――仮に何千ではないとして――文化の存在を認めています。人類学者が指摘するまでもありません。私たちライオンズの世界でも、人には明らかな外見上の違いがあることにすぐに気が付きます。しかし私は脳外科医として、外見の特徴、例えば肌の色、髪の色、異なる外見、話し言葉の違い、その他あらゆる外見上の特徴にかかわらず、私たちの中身は基本的には同じであることを疑いなく保証することが出来ます。心臓は心臓です。私たちは皆、同じように機能しています。これは、ただ単に科学的なアプローチをとって言うわけではありません。これは人間へのアプローチ――つまり、尊厳のため、調和のため、そしてヒューマニティーのためのアプローチであるべきです。

　文化と人々が日々回転し、接触する、このめまぐるしく変化する世界では、文化の垣根を超えて効果的にコミュニケーションを取れるということは、人として、または仕事の上において、決定的に優位であるとも言えます。文化的に敏感であるためには、思いやり、好奇心、そして他人の意見や信念への敬意が不可欠です。

　文化は、人々の暮らしにとって大きな力を持ちます。それはその人の視点、価値観、ユーモア、そして希望や願いにも影響を及ぼします。生まれたその日から、人は自分の文化の中でどうやって行動したらいいか、経験を通じて学習します。時々、私たちは自分の見方だけでどの文化も似たようなものだという結論を出し、自分自身の文化を理解していれば、他の文化の中でも通用すると考えることがあります。しかし、それは間違いです。

「もしもまだ平和が得られていないなら、それは私たちが仲間だということを忘れているからです」　マザー・テレサ

調和のためのグローバル奉仕事業

　自分自身の文化とは異なるものを理解し、尊重することが重要です。そして、地区や複合地区レベルで合同奉仕事業を行うことほど、異文化への理解と尊敬を培うのに良い方法はないでしょう。地区ガバナーと協議会議長には、ぜひ国際的に手を差し伸べ合うことを検討してほしいと思います。私自身が直接見てきた、日本とフィリピンのライオンズの手による合同医療プロジェクトは、このような国際プロジェクトの実例です。合同奉仕プロジェクトは、マンネリ化した運営に別の見方を示唆し、異なる文化への尊敬の機会を提供します。人々のニーズに応えるために一緒に取り組むことは、国際社会の調和を創造することに他なりません。このようなプロジェクトは、国際協会の第三の目的、「世界の人びとの間に相互理解の精神をつちかい発展させる」を体現するものです。

　クラブも、姉妹クラブ・プログラムに参加することにより、異なる文化を理解するという特別な収穫を得ることでしょう。また、異なる文化背景や考え方を持つライオンズと共に活動することは、一人ひとりの視野を広げ、自分自身のクラブ活動にも新しい刺激が得られる結果となるはずです。

より多くの会員はより多くの奉仕

　会員とクラブこそが、私たちの組織の心臓です。ライオンズは誠実に、情熱を持って奉仕をし、そして奉仕に対する見返りを求めません。

　私たちはこのところ長い間、会員

数が増加する状況を満喫してきました。過去7年間、連続で世界全体の会員数増加という結果を示してきたのです。この成功には幾つかの理由があるでしょう。ダイナミックなグローバル会員増強チーム、効果的なマーケティング戦略と取り入れやすい会員増強のためのプログラムの実施、クラブ・レベルに始まる献身的なリーダー層、過去にない女性と家族会員への呼び掛けなど、枚挙に暇がありません。私たちは共に、会員数を140万人に近いところまで押し上げてきました。私はこの成長を続けたい。それは、会員が多いということは、より多くの奉仕活動が出来る、ということだからです。

クラブ会長こそが、成功の鍵を握っている

国際協会の力はその根本である各クラブから生まれています。つまり、クラブ会長こそが私たちの成功の要だと言えます。彼らこそが成功するためのパワーなのです。そして、クラブ会長は変化を呼び起こす力があります。また、事業を行うやり方を変えていく力を持っています。だから、私はクラブ会長に訴えたいのです。クラブのムードを革新しよう、と。全ての会員が誇りに思い、地域社会で一体となった活動を行い、その奉仕を通じて尊敬を集めるような、そんなクラブに革新していこう、と。私たちが入会してくださいと乞うのではなく、新会員が入れてくださいと言ってくるようになったら、すばらしいと思いませんか?

私は、すばらしいクラブ会長となるためのポイントを、七つの鍵にまとめました（左掲）。

「アスク・ワン」は家族から

家族と一緒に奉仕活動をすることは、家族が一緒に楽しみ、密度の濃い時間を過ごすのにうってつけの方法です。そしてその家族がライオンズの会員であれば更にすばらしい！誰かをクラブに誘うならば、まずは自分にとって最も身近で最も信頼する人――自分の配偶者や家族を誘うべきです。

ライオンズへの自分の思いと意欲をまず、家族と共有しましょう。ライオンズ会員として家族が共に奉仕活動をすることは、他人に奉仕するという伝統を家庭に築くことになるのです。

「アスク・ワン」の会員キャンペーンは、家庭から始まります。ライオンズの家族がコミュニティー奉仕の最前線にいれば、奉仕のメッセージはより早く、活発に広がっていくでしょう。その結果、世界最高の奉仕団体にふさわしいという認識が高まるに違いありません。

ヒューマニティー・全てを一つに

クラブが地域社会での奉仕の中心だとすれば、LCIFは私たちの世界規模での奉仕における中心です。LCIF交付金のおかげで、クラブは迅速に災害に見舞われた地域社会を支援することが出来ます。LCIFのプログラムとパートナーシップは無償の医療や、医師、看護師への研修などの提供を通じて、苦しむ必要のないはずの失明や困難から人々を救って、子どもたちに生きるためのスキルを教え、その他多くのことを可能にしています。私は皆さんに、献金やメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）プログラムを通じて、一体となってLCIFへの貢献の機会を持って頂きたいと思います。こうした支援が、尊厳と調和を持って人類への奉仕を行う能力を支えているのですから。

クラブ会長 成功への鍵

1. 会員であることの価値を向上（新会員へのより良い研修）
2. 会員が誇れるクラブづくり（クラブへの満足度を向上）
3. 質の高い奉仕プロジェクト（コミュニティーのニーズに合った奉仕）
4. 家族ぐるみの奉仕（「アスク・ワン」は家族から）
5. より多くの女性会員と若手会員を（男女比の理想は1：1）
6. コミュニティー全体のリーダーたれ（リーダーシップ研修の充実）
7. 既成の枠にとらわれない発想を（非効率な慣例、習慣、ルールの変更）

おわりに

100周年の祝賀が近づいている今、私たちの創設者、メルビン・ジョーンズの言葉を胸に刻み、思いを巡らせると良いでしょう。

「他人に尽くすことから始めるのでなければ、人生の大は成し遂げられない」

メルビン・ジョーンズ

私たちの歴史を通して、共通の目的のために人々を一つにまとめる力があるということを、ライオンズは示してきました。繰り返し、国境というものは地図の上にある線と点にすぎないことを、我々は自ら示してきたのです。

世界中に紛争や摩擦が絶え間なくありますが、私たちはお互いの違いを超えて、奉仕活動を通じ、草の根のピースメーカーとして活動してきました。

◆

私は今、人道奉仕におけるグローバル・リーダーであるライオンズクラブ国際協会の会長であることを、非常に誇りに思うと同時に、とても謙虚な気持ちを抱いています。

千羽鶴に込めて、皆さんの成功をお祈りします。しかし何よりも、皆さんが他人のためにもたらす奉仕が、皆さん自身にすばらしい愛と満足感をもたらし、皆さんの心を喜びと平和が満たすことを願っています。

優しくあれ
開放的であれ
好奇心を持て
強くあれ
寛大であれ
真摯であれ
忠実であれ
正直であれ
ライオンであれ

山田實紘

共通の目的のために一つになる

Dignity - 尊厳

他人のための奉仕に努力する時、常に奉仕する相手の尊厳を忘れずにいよう。

奉仕の手を差し伸べる時、常にそれは施しではないことを忘れずにいよう。

Harmony - 和

人が立ち上がるために手を差し伸べる際には、それはただの親切な行為ではなく、理解と調和を作り出しているのだということを、常に忘れずにいよう。

Humanity - 人類愛

自分のコミュニティーで恵まれない人々に奉仕の手を差し伸べる時、目の前にはいない世界中の恵まれない人々にも思いを寄せよう。

そして私たちが人類のために奉仕を続けるに当たって、人々のために奉仕をするのは義務ではなく、それは責任であることを忘れずにいよう。

山田實紘国際会長プロフィール

医療現場から国際会長へ

日本の医師、山田實紘第99代国際会長は国際協会の健康増進を誓う

45年間にわたる山田實紘医師の日常。手洗いを済ませ、患者の家族が心配そうに待合室を行き来する中、脳や首、背中の手術に向かう。とはいえ彼の仕事は脳神経外科医だけではない。個々の家族だけでなく、地域社会全体に大きな影響を及ぼす仕事、病院長も務める。

そして6月30日、彼はホノルル国際大会で第99代ライオンズクラブ国際会長への就任を宣誓し、全ライオンズのために尽くす新たなステージに立つ。

外科医の仕事には、高い技術、細部を見分ける鋭い目、そして大量の情報を総合して瞬時に難しい決断を下す能力が必要である。確かに、国際会長としての仕事は脳外科手術とは異なるだろう。しかし彼はここでも、はしかや視力に関する取り組みなど、命を救い、あるいは人生を変えるような大事業にライオンズを集結させていかねばならない。また、会員を維持、増強し、100周年記念事業を推進し続けねば。

山田会長は140万人の会員と国際協会をどのように導いていくのだろう?

大きな教訓となったのは、自身ががんと診断された時の恐怖と、主治

以前教えていたあじさい看護福祉専門学校を再訪した山田会長（写真：ジョン・ティマーマン）

いかにも医師といった風采の山田会長について、「典型的な脳外科医」と語るのは、地元岐阜県で観光・商業振興事業に携わる友人。

「彼はいつも穏やかで温かく、集中力に優れ、大きな決断を瞬時に下すことが出来る人です。常に細部を見分ける鋭い目と全体像をつかむ力を、併せ持っているんです」

山田会長の人生は常に医療と共にあった。彼の父も医師であり、少年時代にはテレビドラマ『ベン・ケーシー』に夢中になった。主人公は父と同じ仕事をしていて、おまけに輝くばかりの白衣をまとっている。幼い頃に自分の天職を確信した彼は、1968年に日本大学医学部で学位を取得する。

求婚、結婚、そして今では数十年にもなる円満で愛情に満ちた利子夫人との生活の背景にも医療があった。二人は医学部で出会い、講義のノートを見せ合い、弁当を交換し、やがて人生を共にすることになる。彼は愛情を込めて、互いに医学生だった日々を振り返る。

「彼女はノートを取るのが実にうまく、私はダメでした」

と本人は言うが、はたして本当だろうか。

医から受けた「いいかげんな対応」だ。

病院長として新たなケアの在り方を開拓した時に発揮された、持ち前の進取の気性と創造性もある。

ごく普通のライオンや、不満を持ったライオンの気持ちも理解出来る。熱意を失い、クラブをやめる寸前だったこともあるからだ。彼のリーダーシップには、そうした個人的な経験も反映されることになるだろう。

あるいは、再び「火星人の侵略」の話をでっちあげるか。

手術室ではすさまじい集中力を発揮し、院内の会議では至って真面目な71歳の会長は、くつろいだ場面では愛嬌とユーモアで知人を驚かせることもある。彼のそうした面はライオンたちの意表を突くかもしれない。

さて、今、彼が約束を掲げているのは大手術でも精密検査に対してでもない。それはトップに立つライオンとしての、徹底した決意と共感に裏付けられた「患者」への対応である。その言葉は説得力に満ちている。

「私の理念は医療においてもライオンズにおいても、物事を最初に気付いた時よりも良い状態にするということです。私たちが『治療する』理由も、『奉仕する』理由もそこにあるのです」

「最初から、優しくて正直な男性だと分かりました」

とは、夫人の山田利子医師。

「本当に大局的に考えられる人で、物事を何年も先まで見通しているのです」

山田会長には、脳神経外科医として成功するために必要なものが備わっていた。同僚は、緊迫した手術室での彼の冷静さを証言する。更に、病院の管理者としても、その革新的な実績は群を抜いている。木沢記念病院の理事長であり、日本病院会の理事でもある会長の英断の一つに、木沢記念病院でのリハビリセンターの新設がある。

手術を終えても患者の多くは、障害その他の医学的問題を抱えている。

「私がこのセンターを建てることを決めたのは、術後における適切なリハビリが大変重要であると確信したからです。退院して車椅子で帰宅するか、自分の二本の脚で歩いて帰るかでは、大きな違いがあるのです」

この、何年にも及ぶ取り組みのきっかけは、ある術後患者との出会いだった。理学療法の経過が順調だった彼女に「そろそろ家に帰れそうですね」と会長は声を掛けた。すると相手は急に泣き出し、「お願いだから、家に帰さないでください」と訴えたのだ。麻痺の残った身体で家族の重荷になりたくなかったのである。

当時の日本の法律では、医療機関と高齢者介護施設は厳密に区別されていた。そこで山田会長はアメリカやオーストラリアの施設を訪ね、高齢者の統合ケアについて見識を広げていく。そして88年、日本での先駆けとなった「さわやかナーシングビラ」の設立を支援。この介護老人ホームの系列の施設は現在、30余りにまで増えている。

日々の医業は山田会長を大胆かつ革新的な医療のリーダーにしたが、突然恐ろしい病気にかかったことが、医師としての彼を更に大きく変えた。その衝撃は命の尊さを実感させ、強く恩返しを願うようになったのである。

83年の夏。彼は39歳の若さで、肝臓にがんがあり余命4カ月であることを告げられた。緊急手術を受けた時のことを次のように語る。

「自分は死ぬのだと思いました。あの気持ちを何と表現して良いか分かりません」

手術から1年。死の恐怖に怯えながら日々を送っていた彼は、再び主治医のもとを訪れた。

「どうして私はまだ生きているんでしょう？」

と尋ねると、相手は事もなげに、

「腫瘍が良性だったからだよ」

と答えた。山田会長は耳を疑った。次には猛烈な怒りが込み上げてきた。術後の生検には数週間、場合によっては数日しかかからない。

「どうして教えてくれなかったんですか!?」

と詰め寄ると、その医師は威厳を保とうとしつつも震えながら、ぶっ

きらぼうに答えた。

「君が聞きに来るのを待っていたんだよ」

山田会長はこの時から、患者には自分自身が求めたような気遣いを示そうと心に決めた。彼の中では新しい何かが息づいていた。もはや生きていることを当然とは思わなかったし、他者の人生を良くしようとしないで、人生が与えてくれる恵みだけを受け取ろうとは思わなかった。

「私は今命があることへの感謝の念でいっぱいでした。神の存在を感じ、奉仕することを願い、恩返しをしたいと思ったのです」

その翌年、山田会長はライオンズに加わる。ライオンズだった彼の父が亡くなった直後のことだ。地区ガバナーを務めていた叔父が、父の跡を継いで入会するよう促したのである。

入会して3カ月の新人だったある日。山田会長は病院で一日手術に追われた後、手洗いを済ませ、急いで例会にやってきた。すると年上のライオンが彼の服装に腹を立て、

「ちゃんとしたスーツに着替えて、バッジも付けなきゃだめだ」

と叱りつけた。山田会長はこれに憤慨。地区ガバナーの叔父宛てに退会願いまで書いてしまう。

しかし冷静さが戻ってくると、やはり自分の中には依然として奉仕への情熱が燃えていることを感じたのである。

ライオンズで大きな変化をもたらすきっかけとなったのは、彼にとっては身近な内容を扱う事業のリーダーとなったことである。クラブでは臓器提供を呼び掛けており、山田会長はドナー患者のコーディネーター役を引き受けた。彼は脳神経外科医として、臓器提供が命を救うさまを目の当たりにしてきていた。

「私は脳死状態の患者に対処することもよくあります。そうした時ご両親やご家族には、大切な方は臓器提供によって生き続ける、とお話しすることにしています。ある患者が2人の方に腎臓を提供した時のことです。後日、提供を受けた方のご家族が花を持って病院を訪れました。愛する者の命を救ってくれたお礼を、故人のご家族に伝えてほしいのだと。私は強く心を打たれました」

臓器提供のコーディネーターになってから、山田会長はライオンとしての能力を開花させる。それが転機になった、と彼自身も言う。

やがてクラブ会長、地区ガバナー、国際理事として、数々の事業を推進し成功させていく。彼のリーダーシップの核心は、進んで賭けに出ること、論議を巻き起こすこと、枠の外に踏み出すことであり、疑念を和らげ支援を取り付けるために、極めて独創的な手段に訴えることもあった。ゾーン・チェアパーソンだった時もそうだ。地区ガバナーは大規模な奉仕事業を手掛けたいと考えており、山田会長にはアイデアがあった。それは、万里の長城を守るというものだ。長城を放っておけば風化によって崩れてしまうが、これを防止するために植樹し森を作ろうというのだ。

彼の提案は真っ向から反対された。日本のライオンズがどうやって中国と渡りをつけて、技術的知見と人的資源を集結させ、事業を成功に導けるというのか？　山田会長が突然、ある作り話を持ち出したのはこの時だった。地球が火星人の侵略にさらされている、と言うのである。

「火星人が地球を見下ろしていて、進んだ文明の証拠を探しているとしたらどうでしょう？　多分、長城は宇宙から見えますよ」

リーダーたちを前に山田会長は話を続ける。

「長城が崩れかけているのを見たら、『人類は衰えた、征服の時来たり』と考えるはずです。だから、長城を守らなければなりません」

もちろん、これがたわ言だと彼は知っていたし、その場のライオンズも知っていた。（彼からその場面の話を聞いた利子夫人は、「あなたこそ異星人なんじゃない」と素っ気なく返した）。しかし、この話はライオンズの凝り固まった真面目さ、沈滞、見えるものしか映らない目、そして生ぬるさを揺さぶり、彼らはこの画期的な植樹事業に乗り出すことになる。

超えるべきハードルが多々ある中、その主役級は「鉄の木」の問題だった。ライオンズが木を植えても、すぐに村人たちに切り倒されてしまう。彼らは食事を作るための薪を切実に必要としていた。あるライオンは、「切られずに済むのは鉄で出来た木だけだ」とこぼした。この難問に対し、ライオンズは栗の木を植えることで解決を見いだした。栗は実の価値が高いので、切り倒さない方がより多くの利益を生むのだ。

山田夫妻は頻繁に子どもや孫と食事を共にする（写真：ダン・モリス）

もう一つの難題は、尊敬出来る優れた中国のパートナーを見つけて、いくつもの政治的・現実的障壁の回避を手助けしてもらうことであった。「意思あるところに道あり」と言うが、ここで幸運が訪れる。山田会長が偶然目にした新聞記事に、ある中国人教授のことが書かれており、彼は砂漠化を防ごうと内モンゴルで植樹を指導していた。この教授に電話してみると、手を貸せる格好の人物がたまたま日本にいる、という。「何もかもが、あるべきところに納まりました」と、山田会長。ライオンズは地元の中国人ボランティアの協力を得て、3年間で6万8千本の木を植えることに成功した。火星人は襲来していない。

アメリカ・イリノイ州オークブルックにある国際本部の執務室で椅子にもたれ、山田会長は質問の答えを考えている。彼は医療のリーダーだった時と同じように、ライオンズの会長としても革新を目指し、リスクを冒そうとするか？　会長は本部を離れることが多く、時間のゆとりもなくなるだろう。今年度は世界各地を飛び回り、クラブ、大会、フォーラムでライオンズの意欲を喚起し、彼らに学び、現場から情報を集めることになる。こうしたことは、決定を下し方針をまとめる上で不可欠である。

「きっとこれまでと同じでしょう」と彼は言う。

「変わる部分もあるとは思いますが……。私の期待は常に重く、理想は大きく、目標は高いのです」

したがって、今年度は出来事の多い1年、楽しい1年、そして過去と未来をまたぐ曲がり角の1年となるはずである。

「100歳を迎えようとしているライオンズは、転機にあると思います。私たちは、国際協会が更に100年間存続することを願っています」

「これまで成し遂げてきたことを振り返り、将来出来ることを見極めなければなりません。ちょうど前と後ろと、二つの方向を見つめているライオンズの紋章のように。もはや意味を失っていることは、過去に置いていくべきでしょう。それが、今後進んでいく道なのです」

（ジェイ・コップ）

新国際理事抱負

世界全体への義務を負うライオンであるために

私は1963年11月、弱冠21歳で、今年51周年を迎えた北海道・旭川東ライオンズクラブから招請を受けてライオンズクラブのメンバーとなりました。

以来、在籍51年間をクラブの仲間と共に社会奉仕にまい進してきました。そうした中で、地域社会からの信頼と感謝の言葉を頂き、多くの感動を得ることが出来ました。また331-B地区並びに331複合地区の運営にも関わり、ライオンズクラブの国際性、奉仕の多様性に対する認識を深めてまいりました。大変ありがたいことだと感じております。

今、ライオンズクラブ国際協会に必要なことは、日本のライオンズ・メンバーが日本文化をよりどころとして行った奉仕から得た、武士道精神そのものだと思います。それは新渡戸稲造先生が『Bushido; Soul of Japan（武士道）』に説いた、「社会全体への義務を負う存在」としての「私」という精神です。言い換えれば、「世界全体への義務を負う存在」としての「ライオン」です。この世界と私が一つとなることが、本当の意味での社会奉仕になると確信しています。

私は2011-12年度に331-B地区ガバナーとなり、2500余人の地区内メンバーのリーダーとして、当時のウィンクン・タム国際会長、山田實紘国際理事会アポインティーのご指導の下、献眼推進並びに次代を担う青少年の健全育成に取り組みました。更にはタム国際会長の提唱された100万本の植樹という環境保全アクティビティにも積極的に関わってまいりました。これは実に、「世界全体への義務を負うライオン」としての私の信念からの行動であります。

しかしながら、このような取り組みは私一人で行えるものではありません。多くの先輩ライオンの長年のご指導によるものであり、先輩ライオンに心から感謝を申し上げます。

さて、地区ガバナー当時からご指導頂いている山田国際会長は、2015-16年度の国際会長テーマに「命の尊厳と和　奉仕を通じて」（Dignity Harmony Humanity〈尊厳、和、人類愛〉）を掲げておられます。そして、このテーマによる奉仕活動を達成されるために長年取り組まれてきた目標「あなたのクラブ、あなたのやり方で」を更に推し進められています。

私も家族会員パイロット・プログラムの推進を図るために力の限り尽力してまいります。

またライオンズクラブ国際協会の具体的奉仕活動には、青少年の健全育成（ライオンズクエストなど）、障害者支援（視力ファースト、アイバンク、スペシャルオリンピックスなど）、飢餓対策（食糧支援など）、環境保全（植樹、自然災害対策など）といった数多くの取り組みや課題があり、それらのアクティビティにも積極的に関与してまいります。

今までの経験を生かし、日本ライオンズの名誉と誇りに掛けて、ご支援くださいました皆様のご期待に応えるべく、国際理事としての務めを精一杯果たさせて頂く所存でございます。

何とぞ、更なるご支援とご指導をお願い申し上げ、就任のあいさつとさせて頂きます。

日本ライオンズのメンバーの方々と共に、声高らかに「ウィ・サーブ！」。

■安井克之（やすいかつゆき）

1942年生まれ。㈱安井組取締役会長。63年北海道・旭川東ライオンズクラブ入会。90年度クラブ会長。97年度リジョン・チェアパーソン。11年度331-B地区ガバナー。11年度331複合地区ガバナー協議会副議長。

新国際理事抱負

情報の共有でクラブの飛躍を リーダーの育成で組織の強化を

　ホノルルで開催された第98回国際大会において、国際理事に選出頂きましたことを心より感謝申し上げます。今大会では山田實紘国際会長が就任されるということで、日本から大勢の会員が参加されました。日本待望の国際会長就任を皆様と共に喜び、祝したいと思います。

情報の共有でクラブの飛躍を

　日本にライオンズクラブが誕生して六十数年が経ちました。長い歴史の中で、社会構造の変化、あるいは人口構成の変化等により、ライオンズも大きな変革期を迎えています。今、私たちは問題意識を共有し、時代に合った運営に取り組まなければなりません。山田国際会長を頂点とする国際協会執行役員、国際理事会が決議した方針や施策の情報を、皆様方に可能な限り正確に、スピーディーに伝える必要があると思います。同時に、日本を始めOSEAL地域のライオンズの立場も踏まえ国際理事会に対し建設的な意見を述べ、風通しを良くし理事会とクラブのつながりを強化しなければなりません。

　例えば昨年度行われた国際理事会において、多くの地域で伝統的なプロトコールや形式に従った例会を行っており、そうすることが義務だとクラブが信じている場合が少なくないことが指摘されました。その結果、クラブ例会の在り方を見直してみようと、「あなたのクラブ、あなたのやり方で」というパンフレットが発行されました。この内容は『ライオンズ必携』を教科書に育った、私のようなライオンにとっては大いに戸惑うものです。しかし、ライオンズ力を高めるには避けては通れない道だと思います。こうした情報を、国際理事会から各クラブまでが共有し、お互いの意見を尊重しながら、ライオンズクラブが活性化し発展する方向で議論しなければなりません。

　これは一例ですが、今後は国際協会から発信される多くの情報を皆様と一緒に考え、日本のライオンズの中でも情報を共有し、ライオンズクラブが飛躍出来るようがんばります。

リーダーの育成で組織の強化を

　いかなる組織においても、組織を発展させ、維持し、強化させていくには有能なリーダーの存在が欠かせません。ライオンズにおいても、有能なリーダーの育成が緊急の課題と思われます。特に、グローバルな感性、広い視野を持った若いリーダーを育てていくことが、地域そしてクラブに新しい感性と力強いエネルギーを創り上げます。私は地区GLTコーディネーターを務めさせて頂いた経験から、有能なリーダーを育てていくには、その地域に最も適合した育成プログラムを作り、タイムリーに実行することが大切だと実感します。そのために国際本部のリーダーシップ部としっかり連携し、情報交換し、最も効果的なプログラムを、効果的なタイミングで、会員に届ける努力をします。

第99回福岡国際大会の成功

　16年には福岡市において第99回ライオンズクラブ国際大会が開催されます。これは山田国際会長の集大成の大会でもあります。

　日本中のライオンが力を合わせて、日本で開催される国際大会を成功させることが、全てのライオンズにとって力強い活性化につながると信じています。国際大会の成功へ向けてしっかり活動していきます。

　今後とも皆様のご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

■佐藤宜之（さとうよしゆき）

1947年生まれ。㈱サンクス取締役会長。91年大分ライオンズクラブ入会。06年度クラブ会長。09年度337-B地区ガバナー、337複合地区ガバナー協議会副議長。10年度337複合地区国際協調・国際大会委員長。12年度337-B地区GLTコーディネーター。

国際理事活動報告

理事としての2年間を振り返る

清水英徳（2013～15年国際理事／群馬県・高崎）

2013年7月、ドイツ・ハンブルクで開催された第96回国際大会。山田實紘国際第2副会長が誕生したこの大会で、私は国際理事に選出されました。大会終了翌日には国際理事会が開会され、まさに緊張の連続でした。理事会では2年間、LCIF委員会と会則及び付則委員会に所属し、2年目には前者の副理事長と後者の副委員長職を命じられ、更にこの2年間は議長連絡会議や東日本大震災復興支援対策会議、ライオン誌日本語版委員会、公式訪問、さまざまな就任式、退任式、イベント等、連日のように会合に参加。国際理事就任から間もない9月には、東京・日比谷での元国際理事懇談会で、すばらしい先輩たちのお話を伺い、大変有意義であったと思っております。

10月、バリー・J・パーマー国際会長の出身地、オーストラリア・ケアンズで第2回国際理事会。また同月、山田国際副会長の提案で第1回日本ライオンズ国際委員会が開催され、11月、シンガポールで東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラム。またパーマー国際会長が東西日本を公式訪問され、多くのメンバーが参加し、有意義な時間となりました。

14年2月は東京でのGMT、GLT会議。また3月に掛けてアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴで国際理事会、そのまま韓国・仁川OSEALフォーラムのステアリング委員会に出席し、4～6月は各準地区及び複合地区の年次大会でめまぐるしい日々が続き、6月20日には夜中にLCIF財務委員会電話会議があり、膨大な資料の検討が行われました。その後カナダ・トロントで年度最後の国際理事会と国際大会が開催され、西川義規国際理事が誕生しました。

9月、パーマーLCIF理事長が来日されセミナーを開催。山田国際第1副会長の公式訪問もあり、10月はアメリカ・アリゾナ州スコッツデール国際理事会。閉会後メルビン・ジョーンズ記念館を訪問する機会を得ました。約100年にわたる奉仕活動の記録や、彼の奉仕に対する信念を目の当たりにし、強い感銘を受けました。11月には、ジョー・プレストン国際会長が日本を公式訪問され、その直後には仁川OSEALフォーラムが開かれました。

15年に入ると、2月にタイ・バンコクOSEALフォーラムのステアリング委員会。バンコクは高いビルが建ち並び、記憶にある景色と大きく変わっていたのに驚かされました。

3月にLCIFの電話会議があり、4月にチェコ・プラハで国際理事会。壮大なプラハ城やカレル橋など、ヨーロッパで最も美しい都市の一つと言われていますが、会議に追われなかなか観光までは出来なかったのが少々残念です。

5月は今年も年次大会などでてんてこ舞いでしたので、大変失礼をしたかと申し訳なく思っております。

6月、LCIFの電話会議での準備を経て、ハワイ・ホノルルでの国際大会直前に開かれた国際理事会が、私にとって最後の理事会となりました。

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

国際協会史上2人目の日本人国際会長就任

6月30日、アメリカ・ハワイ州ホノルルで開かれた第98回ライオンズクラブ国際大会の第3回総会（閉会式）で、ライオン山田實紘が2015‐16年度国際会長に就任した。日本人が国際会長に就任したのは、1981‐82年度国際会長を務めた故ライオン村上薫に次いで2人目となる。山田国際会長は就任の宣誓を行った後に演説を行い、国際会長テーマ「命の尊厳と和（Dignity, Harmony, Humanity）」を発表し、新年度は子どもたちへの奉仕を最優先の活動とする方針を示した。

ライオン山田は85年に岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブに入会し、94‐95年度クラブ会長、96‐97年度334‐B地区ガバナー、2005～07年国際理事、11‐12年度国際理事会アポインティーを務めた。国際協会から会員に与えられる最高の栄誉である親善大使賞など多くのアワードを受賞。累進メルビン・ジョーンズ・フェロー（PMJF）でもある。脳神経外科医で、社会医療法人厚生会木沢記念病院、多治見市民病院理事長。同じく医師であり、美濃加茂ライオンズクラブ会員で、PMJFでもある利子夫人との間に、長男と長女、孫3人がいる。

ホノルル国際大会投票結果

ホノルル国際大会最終日の6月30日、代議員による国際会長、国際第1及び第2副会長、国際理事（改選定数17人）の選挙と国際会則及び付則改正案の賛否投票が行われた。今大会の代議員数は5308人（補欠代議員290人）、このうち日本の代議員数はアメリカに次ぐ907人（補欠35人）だった。第3回総会（閉会式）で報告された代議員投票の結果は以下の通り。

■2015‐16年度国際会長：山田實紘（日本・岐阜県美濃加茂市）

■2015‐16年度国際第1副会長：ロバート・E・コーリュー（アメリカ・テネシー州ミルトン）

■2015‐16年度国際第2副会長：ナレシュ・アガワル（インド・デリー）

■2015～17年国際理事17人中、OSEAL地域の国際理事

安井克之（日本／331複合地区）
佐藤宣之（日本／337複合地区）
ウンソク・チョン（韓国／354複合地区）

■国際会則及び付則改正案

第1項：国際理事会の構成を変更するべく、3年間かけて、米国を代表する理事を3人減らすとともに、ISAAME（インド、南アジア、アフリカ、及び中東）を代表する理事を2人、またOSEAL（東洋東南アジア）を代表する理事を1人増やすことにより国際理事数の再配分を行う改正案**【可決】**

第2項：第3副会長職再導入の改正案【可決】
第3項：リーダーシップ委員会の名称をリーダーシップ開発委員会に変更する改正案【可決】
第4項：滞納金は地区大会の資格証明締切り時の15日前までに支払わなければならないとする改正案【可決】
第5項：地区再編成の手順を変える改正案【可決】

2015‐16年度国際理事会の構成

6月30日、ホノルル国際大会の閉会直後に2015‐16年度最初の国際理事会が開かれ、各委員会の構成が発表された。日本の国際理事会構成員の所属委員会は次の通り。

山田實紘国際会長は執行委員会、長期計画委員会の委員長を務める。日本の2年目理事、西川義規国際理事は国際大会委員会の副委員長を務め、1年目理事の安井克之国際理事は奉仕事業委員会、佐藤宜之国際理事はリーダーシップ開発委員会に所属することが決まった。また国際理事会アポインティーに日本から鈴木誓男元334‐A地区ガバナーが就任し、会員増強委員会に所属する他、特別委員会の家族及び女性アクション委員会の副委員長を務める。

山田国際会長が指名した国際理事会アポインティーは6人中3人が東洋・東南アジア地域から選出され、鈴木元地区ガバナーの他にタールン・チャン元国際理事（台湾）とソムサクディ・ロヴィス元国際理事（タイ）が就任した。

2015年人道主義大賞はセーブ・ザ・チルドレンに

ホノルル国際大会の最終日、6月30日に行われた第3回総会（閉会式）で、シリア難民の支援などに取り組む国際NGOセーブ・ザ・チルドレンに2015年人道主義大賞が贈られた。セーブ・ザ・チルドレンは1919年にイギリスで創設された子ども支援専門の国際組織で、現在は約120カ国で活動を展開している。96年にわたるその活動で、乳幼児死亡率の減少や識字率の向上に貢献。大災害の被災地や紛争地域の子どもたちの支援にも取り組んでいる。同組織のキャロリン・マイルズ代表にはジョー・プレストン国際会長から、クリスタルのライオン像と25万ドルが授与された。

ホノルル国際大会で行われたLCIF表彰

ホノルル国際大会では6月29日に行われた第2回総会とメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）昼食会において、2014‐15年度の表彰が行われた。表彰を受けた日本の地区、クラブ、会員は左記の通り。

■献金額100万ドル以上の地区＝334‐A地区
■100％MJFクラブ＝愛知県・名古屋ウエスト／北海道・旭川なでしこ／長野みすず
■200％MJFクラブ＝神奈川県・秦野
■ヒューマニタリアン・パートナー／シルバー＝鈴木誓男元地区ガバナー　＊献金累計20万ドルに達した個人に対する表彰

第2回総会でパーマーLCIF理事長から表彰を受ける加藤助太郎334-A地区ガバナー

■ヒューマニタリアン・パートナー／ゴールド＝栢森新治元国際理事　＊献金累計30万ドルに達した個人に対する表彰

2014－15年度末世界と日本の会員数

国際本部集計によると、2014－15年度末の世界の会員数は137万7913人で、年間で1万7791人の純増となった。日本が所属する東洋・東南アジア（OSEAL）地域は2万393人の純増で、七つある会則地域の中でも最大の伸びとなった。OSEALの躍進には日本の7517人純増（会員数12万1122人）を始め、中国の9498人純増（3万1664人）、韓国1599人純増（7万7869人）、台湾1589人純増（4万3477人）と、会員数の多い国がのきなみ純増を遂げたことが貢献している。会員数が世界最多のアメリカは6148人の純減（32万5790人）だったが、第2位のインドは3139人純増（22万5968人）した。日本国内では、35準地区中31地区が純増を遂げた。中でも337複合地区は2445人純増（1万7123人）と大幅な伸びを見せた。女性会員の割合は20・8％から24・9％へと年間で4ポイント上昇。世界平均は27・0％である。本誌巻末（58ページ）の「ライオンズクラブ分布図」では、準地区別会員数を掲載している。

2014－15年度、日本のクラブ数は25クラブ純減

2014－15年度、日本で新たに結成されたクラブは19クラブ、解散したのは44クラブで、25クラブの純減となった。クラブ数は04年度末の3424クラブをピークに年々減少を続けている。年度内に解散した44クラブのうち、36クラブが6月末に集中した。このうち7クラブは合併解散である。新クラブの結成月には片寄りは見られなかった。新結成19クラブのうち、会員が女性のみ、男性のみのクラブがそれぞれ一つずつ。それ以外の17クラブは男女混合である。新クラブ19件の女性会員の割合の平均は29・4％と、日本全体より5ポイントほど高い。また新クラブの中の1件は、アラート事業に特化した「スペシャル・インタレスト・ライオンズクラブ」だった。国際協会では、会員の仕事や地域、民族性など、共通の関心や特性を生かしたスペシャル・インタレスト・ライオンズクラブの結成にも力を入れている。世界では法律や検眼、スペシャルオリンピックスなど、さまざまなジャンルに特化したクラブが結成され、その多様性が広がっている。

日本向け家族会員パイロット・プログラムの進捗状況

2013年10月にスタートした家族会員パイロット・プログラムの効果が表れ、日本ライオンズは前年に引き続き、2014年度も会員純増を果たした。ServannA集計によると、今年度末の会員数12万1122人のうち、家族会員（世帯主会員を除く、以下同）の人数は2万7547人で、1万9117人だった期首から8430人の純増、会員全体に占める割合は、16・8％から22・7％に上昇した。家族会員のうち男性は期首から1939人純増の6153人、女性は6491人純増で2万1394人だった。家族会員を除く会員数は日本全体では年間で911人純減したが、35準地区のうち10地区は純増を遂げた。特に332複合地区は六つある準地区のうち五つで家族会員を除いても純増している。家族会員パイロット・プログラム開始前の10年間を平均すると、毎年約3千人ずつ会員が減り続けていた。プログラムの促進は、家族会員の増加により会員数の推移を上向きに転じさせただけなく、非家族会員の減少にもブレーキを掛けているようだ。ライオン誌ウェブマガジンからは、家族会員を除いた会員数を含む地区別一覧をダウンロード出来る。

2015－16年度330～337複合地区ガバナー協議会議長

2015－16年度、330～337各複合地区のガバナー協議会議長に就任したのは左記の8人。

■330複合地区：近藤正彦議長（330－A地区）
■331複合地区：佐々木忠康議長（331－C地区）
■332複合地区：阿部一茂議長（332－F地区）
■333複合地区：石﨑義夫議長（333－B地区）
■334複合地区：印田毅議長（334－B地区）
■335複合地区：白山慶三議長（335－D地区）
■336複合地区：矢野敏明議長（336－D地区）
■337複合地区：藤井勝彦議長（337－A地区）

昨年のトロント国際大会において、協議会議長は元地区ガバナーが務めるとしていた国際付則の改正案が可決され、今年度から現職地区ガ

バナーまたは元地区ガバナーが協議会議長を務めることとなった。日本では2004・05年度まで地区ガバナーが協議会議長を兼任していたが、その後は国際理事会方針書の規定の改定及び国際付則の改正を受けて協議会議長は元地区ガバナーが務めてきた。今年度は10年ぶりに日本の八つの複合地区全てで現職の地区ガバナーが議長を兼任する。

各協議会議長は八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議の構成員となる。6月15日に開催された現・次期協議会議長引き継ぎ会議において、次年度議長連絡会議の世話人に近藤330複合地区議長、副世話人に印田334複合地区議長、矢野336複合地区議長が互選された。

LCIF東日本大震災復興支援が終了

LCIF東日本大震災指定交付金による事業が完了し、6月15日に開催された現・次期複合地区ガバナー協議会議長連絡会議において東日本大震災復興支援対策本部の山浦晟暉本部長から4年間の活動報告が行われ、LCIF人道主義プログラム援助金交付課のジンダリー・ビークへ報告書が手渡された（写真）。東日本大震災復興支援対策本部は2014・15年度をもって解散し、義援金口座が閉鎖される。LCIF東日本大震災指定交付金は総額2100万ドル、約17億5千万円で、緊急支援及び332複合地区における復興支援事業などに使用された。

なお、本誌10月号増刊でLCIF東日本大震災復興支援対策本部の報告と指定交付金の収支報告、332複合地区で実施された交付金事業の紹介などを行う予定。

山田實紘国際会長の日本公式訪問

山田實紘国際会長は就任後初の国際理事会を終え、まずはシンガポール訪問に出発。1年間、各複合地区への公式訪問や公式行事出席のために世界中を飛び回る。日本での公式訪問は東西2カ所で左記の通り行われる予定。

9月8日（火）334〜337複合地区公式訪問／福岡市

9月10日（木）330〜333複合地区公式訪問／北海道旭川市

LCIFの田辺憲雄資金開発課課長が退職

LCIF資金開発課の田辺憲雄課長が7月末日をもって退職する。後任としてクリストファー・プランケットが同課のOSEAL担当課長に就任する。

会議録

■第11回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（5月28日）①第3回日本ライオンズ事務所統合検討委員会報告②ホノルル国際大会参加準備状況の確認（複合地区国際大会委員長連絡会議）③次年度への引き継ぎ事項（案）④その他⑤FWT報告⑥GMT報告⑦各種会議報告⑧日本ライオンズ連絡事務所運営関係

■第4回複合地区会則委員長連絡会議（6月4日）①前回会議要録の確認②クラブ例会と家族会員の出席義務③プラハ国際理事会決議事項要約の確認④2015ホノルル国際大会上程の国際会則及び付則改正案の確認⑤ライオンズ必携第55版改訂の検討⑥ライオンズ必携第55版の頒布⑦その他

■第11回ライオン誌日本語版委員会（6月5日）①ライオン誌日本語版事務所の運営②議長連絡会議との合同検討委員会③6月号（5月20日見本／9万8400部発行）出来④7月号記事内容の確認⑤8月号以降台割（案）⑥その他

■現・次期協議会議長引き継ぎ会議（6月15日）【第1部：年度内の報告及び確認事項】①ホノルル国際大会参加準備状況の確認（複合地

区国際大会委員長連絡会議）②第4回複合地区会則委員長連絡会議要約（案）の確認③FWT次年度行事計画について【第2部：次期への引き継ぎ】④次年度への申し送り事項⑤質疑応答【第3部：東日本大震災復興支援対策本部関係】⑥東日本大震災復興支援対策本部の解散と義捐金口座の閉鎖【第4部：次期協議会議長の打ち合わせ】⑦次年度議長連絡会世話人、副世話人の互選

■**LCIF複合地区コーディネーター会議**（6月16日）①資金開発課OSEAL担当課長の紹介及びあいさつ②エリア及び複合地区コーディネーターのプロトコールの確認③LCIF50周年に向けて日本の方針④複合地区コーディネーターの役割と責任⑤協議事項（新旧引き継ぎ会／次年度及び今後3年間の複合地区の目標発表／LCIF理事長の公式訪問／小冊子『支援のための事例』の配布／次回会議日程）⑥その他（委嘱状及び名札の授与／LCIF理事長アワード〈理事長メダル〉の授与）

新結成／解散／合併クラブ

■**新結成クラブ**

新潟ロイヤル（捧鉄二会長／20人）▼6月16日認証▼スポンサー／新発田菖城

■**解散クラブ**

6月＝東京板橋／神奈川県・大和／川崎向ケ丘／埼玉県・浦和すみれ（合併）／美里武蔵／三郷むらさき／北海道・阿寒／宮城県・仙台南／塩釜仙塩中／秋田合川／新潟サウス（合併）／栃木県・鹿沼／小山思水／千葉県・茂原長生／館山南／八街グリーン／愛知県・刈谷アイリス／静岡県・浜松舘山寺／磐田南／兵庫県・神戸ハーバー／西宮パール／大阪梅田新道／堺エンゼル／大阪いとはん（合併）／泉州南なでしこ／愛媛県・宇和島中央（合併）／岡山県・赤磐／倉敷瀬戸／奈義勝北／広島県・福山グリーン（合併）／広島安佐／福山ニューセンチュリー（合併）／鹿児島県・湧水／横川／熊本県・水前寺銀杏／熊本みさと（合併）

■**合併クラブ（合併前のクラブ）**

埼玉県・浦和（浦和／浦和すみれ）
新潟（新潟／新潟サウス）
大阪戎橋いとはん（大阪戎橋／大阪いとはん）
愛媛県・宇和島（宇和島／宇和島中央）
広島県・福山シティ（福山沼南／福山グリーン／福山ニューセンチュリー）
熊本県・砥用（砥用／熊本みさと）

■**クラブ名称変更**

群馬県・伊香保県央→渋川伊香保・榛東・吉岡

訃報

■**元国際役員**

ライオン松本文雄（熊本県・宇土）
5月24日死去。92歳。84年度337-D地区ガバナー。献眼。

ライオン糸井久夫（群馬県・高崎）
6月4日死去。93歳。97年度333-A地区ガバナー、99年度333複合地区ガバナー協議会議長。

ライオン秋場寛（千葉県・上総一宮）
7月3日死去。95歳。84年度333-C地区ガバナー。

■**献眼者**

5月＝ライオン福田繁三（島根県・平田）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

国際大会開催予定

第99回＝16年6月24日～28日／日本・福岡
第100回＝17年6月30日～7月4日／アメリカ・イリノイ州シカゴ
第101回＝18年6月29日～7月3日／アメリカ・ネバダ州ラスベガス
第102回＝19年7月5日～9日／イタリア・ミラノ
第103回＝20年6月26日～30日／シンガポール

全ての子どもたちのための特別な公園

地域住民の協力があれば、夢は実現出来る。

アメリカ・テキサス州ベルトン市では、地元ライオンズとLCIF、地域住民が一体となり、新しい児童公園を設置した。身体の不自由な子も安心して利用出来るよう、さまざまな配慮や工夫が施された遊び場は、子どもたちの笑顔であふれている。

この計画が持ち上がったのは2012年。ベルトン市の市職員とライオンズは、障害の有無にかかわらず、全ての子どもが集える公園を建設すると決めた。

当初は財源の確保に苦労したが、市民から2年間で5万ドルもの寄付金が寄せられた他、市のマッチングファンドやLCIFの一般援助交付金7万5千ドルなどの資金を調達することが出来、ようやく「夢の遊び場」が具体的な形になる時が来た。

それから数カ月間、ライオンズクラブの代表は地元企業と提携して、公園の建設や遊具の選定に従事した。

14年12月、ついに新しい児童公園が完成。多くの市民がこれを祝った。最終的なプロジェクトの総費用は18万ドルに上った。

「今日、ベルトンに新しい記念日が出来ました」

開園初日、地元紙のインタビューに答えたのは、市の担当職員であるサム・リスティ氏。

「ベルトン ライオンズクラブとLCIFは、このプロジェクトには無くてはならない重要な役割を担ってくれました。市民の皆さんにも、5万ドルという多大なご協力を頂きました」

約500平方メートルの広さを持つ児童公園には、身体に障害のある子どもたちも安心して利用出来る遊具（滑り台、回転遊具、雲梯など）がある。また、あらゆる場所に車椅子用のスロープが設置され、公園内のどこへでも行き来することが可能だ。

通常は小石や砂を敷設する場所にもパッド入りの芝生が代用され、通行しやすい。車椅子利用者の両親や保護者たちも、子どもたちの遊ぶ姿を近くで見守ることが出来るようになった。

「個人からの寄付に加え、市やLCIFの援助のおかげで、我々はこの公園を完成させることが出来ました。まさに地域全体で達成することが出来たプロジェクトです」

そう話すのは、ベルトン ライオンズクラブのライオン ロバート・ジョーンズ。

「車椅子でも不自由なく移動出来るこの公園は、全ての子どもたちのためにオープンしたものです。日々の遊び場に、時には遠足の目的地として、あるいは野外授業の場として、多くの子どもたちがこの公園を利用してくれれば、すばらしいことだと思います」

（エリック・マルグレス）

コロラドの人々に希望の光を届けるLCIF

「残念ですが、このままですと失明の可能性が高いです。これ以上は何の処置も出来ません」

加齢黄斑変性症（AMD）と診断される人の多くは、医師の診断に恐れや不安を抱き、混乱する。しかし、今年80歳になるモーリン・サンフォードさんは、この言葉をそのまうのみにはしなかった。

「失明なんてするものですか！」

彼女は固く誓った。

サンフォードさんの青い瞳は一見健康そうだが、実際は暗くぼやけて見えている。「乾燥型AMD」の後期と診断され、視界の一部が欠損した状態だ。緑内障を患っている友人のメアリー・ダンカンさんは、サンフォードさんの症状を聞き、すぐにアメリカ・コロラド州フォート・コリンズにある「インサイト・スキル・センター」へ行くよう勧めた。

このセンターは国内で唯一認定を受けている低視力専門のクリニックで、視力障害者に充実したサポートを提供。患者は生活の向上と独立を目指し、自信を回復していく。

地元フォート・コリンズのライオンズは、2001年のセンター創設以来、大々的な支援を行っている。13年にはLCIFが20万ドルの交付金を拠出。3年に及ぶ視力ファースト・プロジェクトに充てられた。コロラド州一帯の視覚障害者支援を拡大するため、センターが視力検査設備を搭載した巡回バスを購入。その後2年間、巡回バスで隅々まで移動し、低視力に関する理解を深めるキャンペーンを行ったのだ。各地のライオンズや地域住民に対して、視力障害の診断方法や予防について指導したり、検査や治療を行ったりした。これまで100人以上のライオンズがこのキャンペーンに参加し、現地のサポートやインフォメーションブースの運営を買って出た。

また、この活動により290人の患者にリハビリサービスや家庭訪問によるカウンセリングを提供することが出来た。

サンフォードさんもこの期間、定期的に作業療法士や検眼医と面談し、残された視力をいかに守るかについての助言を受けた。助言に従い、家をリフォームして低視力でも生活がしやすいような工夫も施した。低視力患者の多くは、サンフォードさんと同じく毎日の生活を向上させるために、専門家から電話や家庭訪問などの経過観察でアドバイスを受けることが出来る。

サンフォードさんは、視力ファーストの支援に感謝している。

「以前は、恐る恐る腰をかがめて歩いていました。怖いし、けがもしたくないので何もする気になれなくて。でも、インサイト・スキル・センターとライオンズのおかげで、私はしゃんと背筋を伸ばして、人生の次の一歩を踏み出すことが出来ました」

ボブ・キッチェル6-NE地区ガバナーと、インサイト・スキル・センター長の（ライオン）ダグ・ハッチンソンは、今まで支援サービスが行き届かなかったことで、視力だけでなく希望も失っていた人々に、このプロジェクトが広く行き渡ったと確信している。自身も視力障害のある（ライオン）ハッチンソンは言う。

「自分のちょっとした行動や態度を見直すことで、こんなにも日常生活がポジティブに変わることに驚いています。一人のライオンとして、この活動を誇らしく思うし、これからもより多くの人々にサービスを提供していくことを楽しみにしています」

（マリー・アン・スリウィンスキー）

読者から――6月号

■アクティビティの見直しを

「獅子吼」で紹介された東京シティ ライオンズクラブの「アクティビティ研究推進委員会」はとても参考になりました。ともすれば、マンネリ化傾向にあるクラブのアクティビティを、長期的な視点で見直そうという発想が良いと思いました。

北海道・釧路ライオンズクラブ●藤井芳和

■寄贈から維持管理まで

「SCENE」で取り上げられた宮崎県・国富ライオンズクラブのベンチ製作は寄贈から維持管理までを考えて実施されており、すばらしいと思いました。当たり前のことのようでいて、そこまで行き届いていない事業もあるのではないでしょうか? 特に以前植樹した木々がどこに植えられたのか、現在のメンバーが忘れているものがあると、今回の記事で気付かされました。

岩手県・滝沢ライオンズクラブ●篠木清

■時期的に関心の高い特集

「特集・大人の社会科見学」で取り上げられたジオパークの記事は、現在の日本の状況を考えつつ非常に興味深く読ませて頂きました。北海道の有珠山にはこれまで4度ほど訪れていますが、その度に大きく変化した山の姿を見せてくれました。懐かしくもあり、興味深い記事でした。今、日本各地で火山活動が活発化している中、多くの読者が関心を持たれたものと思います。

宮崎県・日向ライオンズクラブ●田崎登保

訂正とお詫び

7月号「訃報」(35ページ)で故逢坂昭一が地区ガバナーを務めた地区は正しくは334・B地区でした。訂正しお詫び申し上げます。

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

68 宮城県南三陸志津川 髙橋 渡
68 宮城県南三陸志津川 西城 享
68 宮城県南三陸志津川 小坂 克己
68 宮城県南三陸志津川 佐藤 克哉
68 宮城県南三陸志津川 伊藤 和長
68 宮城県南三陸志津川 藤谷 廣司
68 宮城県南三陸志津川 髙橋 正宜
68 宮城県南三陸志津川 阿部 雄一

次号予告

特集 全日本ライオンズ若手フォーラム

ライオン誌日本語版委員会とグローバル指導力育成チーム(GLT)が共催したフォーラムには全国35地区から370人が参加。100周年記念奉仕チャレンジの活動と、次世代リーダー育成の二つのテーマで熱のこもったディスカッションが行われた。

読者プレゼント

■八戸せんべい汁を読者10人に

青森県八戸市の郷土料理「八戸せんべい汁」(2~3人前)が中居雅博元332-A地区ガバナー(八戸ライオンズクラブ)から10人にプレゼントされます。せんべい汁は肉や魚、野菜、きのこなどでだしをとった汁に専用のおつゆせんべいを割り入れて煮込む鍋料理。だし汁がしみこんだせんべいのツルツル、モチモチした食感が特徴です。八戸中心街の屋台村「みろく横丁」の味をお届けします。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「せんべい汁」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は8月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所
*オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

Official publication of Lions Clubs International

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

編集室

変化するライオン誌

ライオン誌
日本語版委員長
◉
寺越愼一
(広島平和)

ライオン誌の委員になって早1年が過ぎようとしている。この間、「ライオン誌を読んでいますか?」と大勢に声を掛けたが、あまり良い反応はなかった。「読んだよ」と反応してくださった方には、「良いことが書いてあるね、これからの奉仕活動の参考になるよ」と言って頂いた。ありがたいことである。

さて、この1年間のライオン誌の私なりの三大ニュースを挙げてみたい。

①2018年1月号までに紙の印刷物をデジタル版に切り替える方針が決定

②ライオン誌日本語版事務所と日本ライオンズ連絡事務所の同居が決定

③99年の国際協会歴史の中で日本から2人目の山田国際会長が誕生する

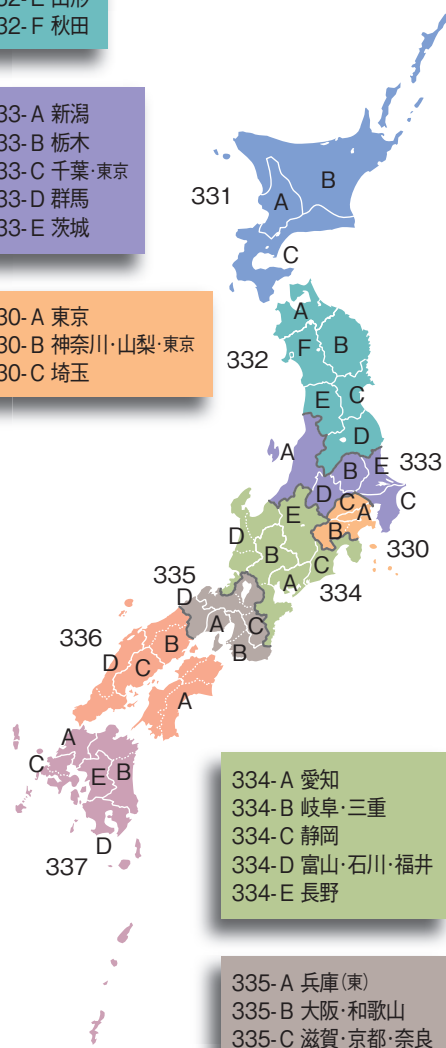
①については、社会全体でデジタル化が進む中で当然の流れかもしれない。しかし紙文化の日本で、今後ライオン誌を読んでもらえるかが心配である。ライオン誌電子版は現在も発行しているが、印刷物があるからとはいえアクセスは非常に少ない。この1年でいかにするか議論しなければならないが、アフリカの国際理事が環境問題の視点からデジタル化を提言したことは重く受け止めなければならない。

②については長年の懸案事項であったが、議長会と共に事務所統合委員会を設けて検討し、7月号で報告した通り東京駅から徒歩5分の八重洲に移転することとなった。これは合理化を目指したものであり、二つの事務所の中身についても、これから統一していく方向である。現在、ライオン誌事務所に保存されている日本ライオンズの資料は貴重なものが多く、記録はここにしかないと思われる。移転に当たり、これをいかに保存・保管していくかは重要な問題で、一部はデジタル化を進めている。

③については、日本のライオンズとして全面的に応援していきたい。ライオン誌では4月号で就任に向けた増刊を発行し、また新年度は山田国際会長の活躍ぶりを取材して、皆さんにお伝えしていく予定である。

日本ライオンズクラブ分布図

2015.6.30　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数		家族会員数			
				男性	女性（割合）	子会員	増減	男性	女性
330-A	203	6,425	858	4,677	1,748（27.2）	1,830	699	598	1,232
330-B	166	4,769	117	3,942	827（17.3）	600	171	156	444
330-C	88	2,433	91	1,951	482（19.8）	414	131	117	297
330 計	457	13,627	1,066	10,570	3,057（22.4）	2,844	1,001	871	1,973
331-A	74	2,770	154	2,224	546（19.7）	501	214	102	399
331-B	85	2,679	92	2,187	492（18.4）	433	199	61	372
331-C	53	1,953	161	1,622	331（16.9）	306	124	78	228
331 計	212	7,402	407	6,033	1,369（18.5）	1,240	537	241	999
332-A	64	2,081	115	1,641	440（21.1）	331	91	70	261
332-B	53	2,415	177	1,612	803（33.3）	795	155	127	668
332-C	68	1,820	147	1,311	509（28.0）	483	146	95	388
332-D	73	2,412	85	1,885	527（21.8）	474	68	101	373
332-E	56	2,023	197	1,599	424（21.0）	364	181	58	306
332-F	45	1,399	21	1,025	374（26.7）	313	43	45	268
332 計	359	12,150	742	9,073	3,077（25.3）	2,760	684	496	2,264
333-A	75	3,308	22	2,578	730（22.1）	710	32	159	551
333-B	51	1,563	-22	1,050	513（32.8）	415	0	93	322
333-C	133	3,780	-45	2,881	899（23.8）	721	32	267	454
333-D	53	2,326	80	1,706	620（26.7）	640	78	146	494
333-E	79	4,347	622	2,883	1,464（33.7）	1,618	636	410	1,208
333 計	391	15,324	657	11,098	4,226（27.6）	4,104	778	1,075	3,029
334-A	119	7,046	885	4,657	2,389（33.9）	2,459	1,027	501	1,958
334-B	81	5,389	143	3,471	1,918（35.6）	2,282	157	539	1,743
334-C	80	3,777	144	2,964	813（21.5）	784	176	112	672
334-D	99	6,179	252	3,930	2,249（36.4）	2,390	236	412	1,978
334-E	52	2,575	147	1,846	729（28.3）	747	157	196	551
334 計	431	24,966	1,571	16,868	8,098（32.4）	8,662	1,753	1,760	6,902
335-A	83	2,156	2	1,732	424（19.7）	185	13	23	162
335-B	170	6,545	391	4,861	1,684（25.7）	1,417	488	284	1,133
335-C	120	4,119	296	3,478	641（15.6）	390	323	84	306
335-D	65	1,998	34	1,613	385（19.3）	265	89	72	193
335 計	438	14,818	723	11,684	3,134（21.1）	2,257	913	463	1,794
336-A	148	6,191	-70	4,680	1,511（24.4）	1,129	59	198	931
336-B	95	3,118	21	2,662	456（14.6）	212	31	34	178
336-C	97	3,178	-57	2,939	239（ 7.5）	38	14	9	29
336-D	96	3,224	14	2,832	392（12.2）	200	11	18	182
336 計	436	15,711	-92	13,113	2,598（16.5）	1,579	115	259	1,320
337-A	116	5,708	1,002	4,058	1,650（28.9）	1,382	1,079	298	1,084
337-B	69	2,989	474	2,149	840（28.1）	838	524	168	670
337-C	82	4,342	782	2,850	1,492（34.4）	1,551	822	445	1,106
337-D	78	2,421	128	2,079	342（14.1）	192	158	32	160
337-E	57	1,663	59	1,412	251（15.1）	138	66	45	93
337 計	402	17,123	2,445	12,548	4,575（26.7）	4,101	2,649	988	3,113
総計	3,126	121,121	7,519	90,987	30,134（24.9）	27,547	8,430	6,153	21,394

世界のライオンズ

2015.6.30　国際協会集計

国または領域………210　クラブ数………46,510

会員数……1,377,913　会員数増減……17,791

和RING-PROJECT

岩手県大槌町の復興支援団体、一般社団法人「和RING-PROJECT」は東日本大震災で被災した人たちが、自宅や自宅周辺のがれきを拾い集め、一つひとつ手作業で作った「がれきのキーホルダー」事業からスタートしました。その後、2013年10月31日には、LCIF東日本大震災指定交付金を受け、同町小槌に「シェアファクトリー」を開所。施設では、町内外の木工職人や大学機関と連携してテーブルや椅子などを製作する他、地域住民や近くの障害者施設にも解放し、内職の拠点として活用していくことになります。更に今後は、屋外にウッドデッキを整備し、住民同士の交流や木工品販売のスペースとすることも計画しています。

和RING-PROJECT
岩手県上閉伊郡大槌町大ケ口2-2-13
http://www.ring-project.jp/
https://www.facebook.com/ringproject

和RING-PROJECTはLCIFの東日本大震災指定交付金を受けました

99th ライオンズクラブ国際大会

～福岡市にて開催～

期間 2016年6月24日(金)～28日(火)

スローガン「動き出そう!人々のために、世界のために」
Do for People Do for World

今、世界はライオニズムの情熱と献身的な奉仕を切望しています。
全ての国家と民族に自由と正義を保証する平和を実現するために、世界中のライオンは堅く団結し、人々の期待に応えようではありませんか。

創立100周年のシカゴ大会を目前にして、2016年には当地福岡にて「第99回ライオンズクラブ国際大会」が挙行されます。
全世界から多くのライオンが一堂に会し、感動的で有意義な誇るべき大会になることでしょう。
ホスト委員会(MD337)をはじめ、福岡県、福岡市、地元の様々な民間企業が一体となって
おもてなし(OMOTENASHI)の心で皆様をお迎えできるように、総力を挙げて取り組んでまいります。

ぜひともご登録・ご参加賜りますよう、心よりお願い申し上げます。福岡が皆さんをお待ちしています！
※二行目はメルビン・ジョーンズのお言葉です。

主要会場

・本部ホテル

・インターナショナルショー　・初日総会(開会式)
・2日目総会　・最終日総会(閉会式)

・展示ホール　・物販ブース　・フードコート
・投票

・大会登録　・参加キット受け取り　・セミナー
・会議

提供:福岡市

第99回 ライオンズクラブ国際大会　ホスト委員会事務局
〒810-8650 福岡市中央区地行浜2-2-3　ヒルトン福岡シーホーク
Tel／092-407-8199　Fax／092-407-8948　E-mail／lc99intcnv@iaa.itkeeper.ne.jp
http://lions99-fukuoka.jp

ライオン誌8月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2015年(平成27年)7月21日発行　毎月1回20日発行　第58巻第2号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所　凸版印刷株式会社